令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」

（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム）

通信制高校連携型キャリア形成支援による地域密着人材育成モデルの構築事業

成果報告書

学校法人　YIC 学院

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪学校法人YIC 学院（YIC 情報ビジネス専門学校）≫が実施した令和 7 年度「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム）の成果をとりまとめたものです。

目　次

第1章　事業の構成機関・構成員 1

1-1. 構成員 1

1-2 事業の実施体制 2

1-3 各委員の役割 3

第2章　事業の内容 5

2-1　事業の趣旨・目的 5

2-2　当該モデルが必要な背景について 5

2-3　調査研究の概要 9

2-4　開発する教育カリキュラム・プログラム 11

2-5　計画の全体像 14

第3章　今年度の具体的活動内容 19

3-1　今年度実施の概要 19

3-2　設置・実施した委員会 19

3-3　実施した調査 20

3-4　開発に際して検討した実証講座の内容 27

3-5　開発した教育カリキュラム・プログラム／調査研究結果の検証 30

3-6　ホームページの作成他 31

第4章　事業終了後に実施予定の取組及び成果の活用方針・手法 33

4-1　事業終了後の取組と成果の活用方法 33

第5章　令和7年度事業実施に伴う成果物 35

5-1　**通信制高校生徒調査・通信制高校教職員調査　資料1** 35

5-2　**通信制出身専修学校生ヒアリング調査　資料2** 56

5-3　**地元中小企業調査　資料3** 81

5-4　**オンライン学習環境／ICT リテラシー実態調査（通信制高校）　資料4** 101

5-5　**LMS・単位制・通信制等に関する制度的枠組みに関する文献調査　資料５** 109

5-6　**ゲーミフィケーションの有効活用　資料６** 124

5-7　**デジタル基礎：通信制高校生のスマホ活用のセキュリティ対応教材　資料7** 127

5-8　**キャリア形成・伴走支援マニュアル　資料８** 136

5-9　**周知チラシ　資料９** 153

第6章　次年度以降に向けて 155

6-1　次年度以降の取組 155

6-2　次年度に向けて 157

第1章　事業の構成機関・構成員

1-1. 構成員

(1) 教育機関

	名称	役割等	都道府県名
1	専門学校 YIC グループ 学校法人 YIC 学院　経営戦略課 YIC 情報ビジネス専門学校 　情報ビジネス科（認定課程）	◎実施推進委員 ◎プログラム開発委員 調査・連携委員 事務局	山口県
2	学校法人 YIC 学院　法人事務課 　文科省事務局	実施推進委員 調査・連携委員 プログラム開発委員 ◎事務局	山口県
3	学校法人 YIC 学院 　社会事業部門 　キャリアサポート室	実施推進委員 ◎調査・連携委員 プログラム開発委員	山口県
4	学校法人 YIC 学院 　IT 統括室 　内部監査・IR 戦略室	プログラム開発委員	山口県
5	学校法人 YIC 学院（京都） 　理事	実施推進委員	京都府
6	山口大学大学院技術経営研究科	プログラム開発委員	山口県
7	福岡大学人文学部	実施推進委員	福岡県
8	大分大学 IR センター	調査・連携委員	大分県
9	広島女学院大学	プログラム開発委員	広島県
10	山口県立山口松風館高等学校（通信制）	プログラム開発委員	山口県

(2) 企業・団体

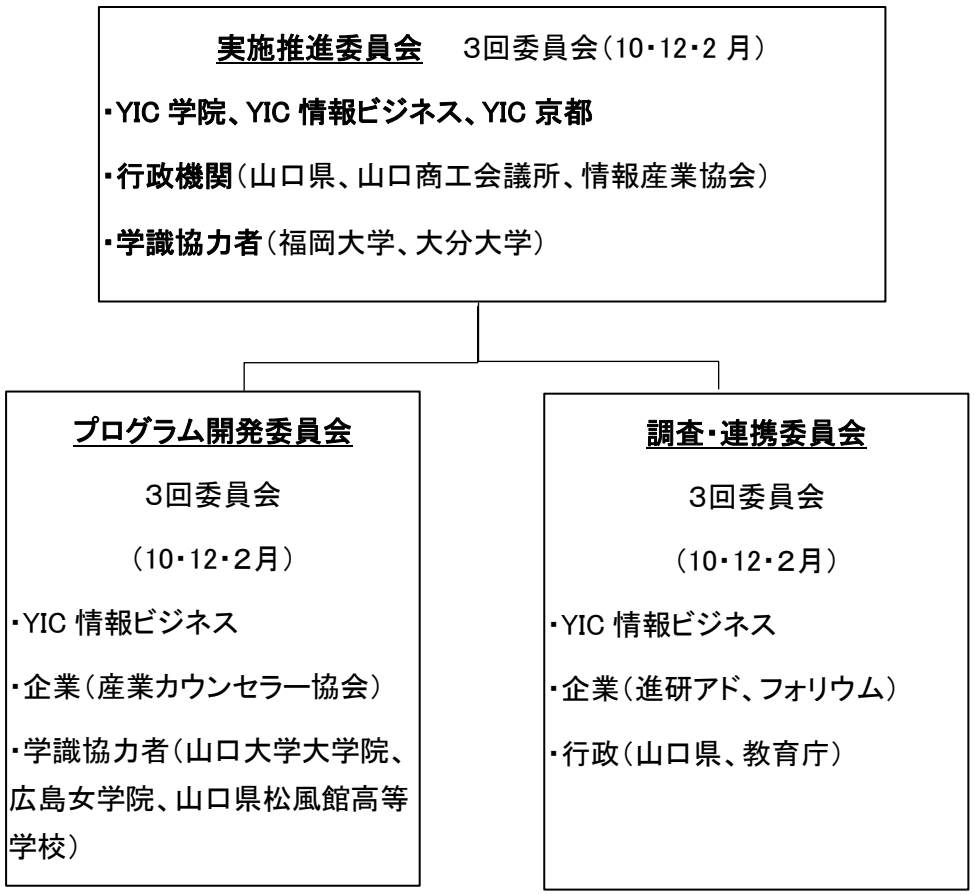
	名称	役割等	都道府県名
1	山口県情報産業協会	実施推進委員	山口県
2	山口商工会議所	実施推進委員	山口県

3	株式会社進研アド	調査・連携委員会	大阪府
4	株式会社フォリウム	調査・連携委員会	山口県 （東京都）
5	一般社団法人日本産業カウンセラー 協会中国支部	プログラム開発委員	岡山県

（3）行政機関・その他

名称		役割等	都道府県名
1	山口県教育委員会　高校教育課	実施推進委員 調査・連携委員	山口県
2	山口県産業労働部企業立地推進課	調査・連携委員	山口県

1-2 事業の実施体制



1-3 各委員の役割

○教育機関

機関名	具体的な役割
専門学校 YIC グループ　経営戦略課 YIC 情報ビジネス専門学校 情報ビジネス科（認定課程） 社会事業部門　法人事務課　事務局	・全体統括管理運営（予算・進捗、目標と成果の調整、各委員会連携、運営等）、事務局 ・調査、実証講座実施、プログラム開発
学校法人 YIC 学院（京都）	・情報共有、調査・実証への連携
以下、教育機関所属学識者	
山口大学大学院技術経営研究科	・プログラム開発についての助言
福岡大学人文学部	・調査、開発、実証への助言
大分大学 IR センター	・調査、エビデンスの分析活用についての助言
広島女学院大学	・プログラム開発についての助言

○企業・団体

機関名	具体的な役割
山口県情報産業協会	・各企業への情報提供、調査協力
山口商工会議所	・各企業への情報提供、調査協力
株式会社進研アド	・情報共有、普及への連携
株式会社フォリウム	・調査・実証の連携
一般社団法人日本産業カウンセラー協会中国支部	・プログラム開発についての助言

〇行政機関・その他

機関名	具体的な役割
山口県教育委員会　高校教育課	・調査連携の協力・情報共有
山口県産業労働部企業立地推進課	・調査・連携についての助言

第2章　事業の内容

2-1　　事業の趣旨・目的

現在、地域産業における人材の空洞化や生活サービスの維持困難といった課題が顕在化しており、地域に根差した教育機関がその受け皿として果たすべき役割は大きくなっている。特に、通信制高校など多様な背景を持つ若者に対して、接続性の高い進学ルートと職業的自立につながる実践的な学びの場を提供することが急務である。

本事業は、通信制高校との連携を基盤に、入学前からのキャリア教育、在学中の柔軟なプログラム設計（オンライン学習・コース選択制・企業連携型の導入）、AI や ICT を活用したデジタルリテラシー育成、地域企業（拠点施設含）との協働を通じた連携授業などを展開し、「県内初の AI×データサイエンスを導入したクロスオーバー型新コース」を目指すとともに、「地域に選ばれる専修学校」づくりを推進するものである。また、卒業後のキャリア定着や地域貢献までを見据えた“育成・伴走・定着”の一体型支援体制を構築し、若年層の社会的移動の促進と地域産業の人材確保・活性化に資する教育モデルの構築を目指す。

『地域密着型人材育成モデルの方針』

・地域からの若者流出を防ぎ、地域に“選ばれる専修学校”を創出する

・学びの多様化とキャリア支援の一体化

・地域社会に貢献する職業人材の育成

・2 年間の枠にとらわれない、継続的な育成モデルの構築。

2-2　　当該モデルが必要な背景について

1．社会的背景（今後の変化）

（1）少子化による若年人口の急減

・国立社会保障・人口問題研究所によれば、20 歳人口は現在の約 110 万人から 2040 年には約 75 万人へと減少している

・地方圏では都市部以上のペースで減少し、高卒後の進学対象者自体が大幅に減少する

（2）地域産業の“担い手”不足と生活インフラの空洞化

・医療・福祉・観光・小売・IT 支援など、地域生活に直結する産業で人材の確保が困難になる

・公共サービス・民間サービスともに「地域で暮らせない」問題が進行中である

（3）通信制高校生・非典型進学層の増加

・通信制高校生は年間約 21 万人（2023 年）に増加（10 年前から 1.5 倍）し、多様な学び・働き方を求める層が拡大している

・経済的事情・心身の事情から「遠方進学は難しいが、専門的な学びをしたい」層が増えている

（「非典型進学層」とは、全日制高校から大学へ進学するという“典型的な進学ルート”ではなく、例えば通信制高校から、専門学校・短大・大学に進学する人や、いったん就職・離職を経験した後に学び直しをする人など、多様な経歴・背景を持つ進学者層の事）

（4）山口県の通信制高校の状況

・公立通信制高校 1 校（山口県立山口松風館高校）、私立通信制高校 6 校（精華学園高校、松陰高校、以上広域制、誠英高校、聖光高校、成進高校、長門高校　以上狭域制）が開設。公立通信制高校に約 1080 人、私立通信制高校に約 5440 人の生徒が在籍（2024 年度） 23 年度に比べると公立校は約 8%、私立校は約 20%生徒数が増加。25 年 4 月萩市に萩明倫館高校（広域制）が開校。

（5）山口県内地域企業のニーズ分析

・山口県が実施した「第 3 期県立高校将来構想」や YIC 学院が文科省事業で実施した「観光・サービス業の DX 人材ニーズアンケート」から地域企業の求める人材像は「基本的な対人力 × デジタルスキル × 地域課題への関心」という3つが主要な資質と考えることが出来る。デジタルスキル・地域課題への関心については、通信制高校出身者のスキルとも合致することが多い。例えば通信制高校出身者は、オンライン学習や自己管理型の学習スタイルに慣れており、動画編集や SNS 活用、e スポーツといったデジタル分野に高い関心を持つ傾向がある。これらは、地域企業が求めるニーズと親和性が高く、実践的なスキルとして即戦力になり得る点で合致している。

2. 変化を踏まえた人材育成

（1）地域社会を「支える・創る」中核人材

・地元の福祉・保育・IT・観光などの生活サービス領域で即戦力・準即戦力となる人材

・高齢者支援、子育て、移動支援、地域づくり、デジタル化推進など、地域のリアルな課題に関われる若者

（2）デジタルを活用し、変化に対応できる職業人

・AI、ICT、SNS、動画、ドローンなどを活用して「仕事のやり方を変革できる」人材

・決められた業務をこなすだけでなく、課題を見つけ、提案し、形にする力を持った若者

（3）地域と“関係性を築ける”人

・就労者ではなく、「地域の担い手」・「若き地域プレイヤー」として活動できること

・年齢・立場を越えて、協働・対話ができる力を備えた人材

3. YIC 学院の方策

以下の 3 点を具体的に実行できるように開発を目指す。

（1）専門教育と地域実践を結びつける地域定着型連携プログラム

例）ドローン×農業、e スポーツ×商店街 PR、AI×地域医療支援など

・学生が「地域の課題」と「専門スキル」を結びつけ、自ら課題解決に取り組む実践学習を推進

（2）デジタル・AI 教育の基盤整備と資格体系

・IT パスポート、D S（データサイエンス）リテラシーレベル、G 検定、生成 AI パスポート等、デジタルリテラシー育成

・デジタルバッジ制度を活用した、可視化・段階化されたスキル育成と習得証明（単位認定）

（3）入学前～卒業後までの一貫した“キャリア育成支援モデル”

～AI カウンセラーを活用した相談の導入、キャリア形成アドバイザー設置～

・入学前：通信制高校等との LMS 連携・キャリア教育・体験授業

・在学中：柔軟なプログラム選択（マイプロジェクト形式）・個別伴走支援

・卒業後：就職支援・U ターン相談・起業支援・編入支援・卒業生ネットワークとの連携

※今年度より「地域若者サポートステーションしものせき」の運営を受託しており、特性に応じたキャリア支援・相談対応が可能

4. 選ばれるための取組

（1）オンライン活用＋地元接続型のハイブリッド教育

・**授業の 4 分の 3 をオンラインで受講可能**にし、住んでいる場所に左右されない進学モデルを実現

・離島・県北・都市部など、地理的制約のある層を積極的に取り込む

（2）**先進性×地元密着**のコース設定

・e スポーツ、AI・ドローン活用、動画編集、SNS マーケティングなど、若者の関心を入り口に地域課題と接続

・入学後のコース選択制・モジュール形式により、関心変化や発達段階に応じて学び直しが可能

（3）グループ他校・他地域・卒業生との“**横の連携**”

・YIC 京都・広島女学院等との連携によるコンテンツ開発や合同授業

・卒業生を「キャリアメンター」や「地域リーダー」として活用し、信頼性・実効性を高める

５．地域への定着の促進

（1）実習を「地域内フィールド」で実施

・企業・福祉施設・観光地など地域現場と直結した教育プログラム　※卒業後の「就職先」としてのマッチングも兼ねる

（2）卒業後もつながる“ライフキャリア支援”

・卒業生に対する再就職相談、スキルアップ支援（講座提供）、起業相談窓口を設置

・地域プレイヤー（起業家・商工会議所、自治体）と連携し、就労後の社会人育成の受け皿として機能させる

（3）定住支援の情報提供とネットワーク形成

・地域内での住宅情報、子育て支援、生活相談など、「暮らし」に関する情報提供

・卒業生・地域社会・現役学生が交差する“**コミュニティ形成型学校**”の実現

2-3　調査研究の概要

（1）ｉ）名称

地域・通信制高校・専門学校・企業が連携して支援体制を構築するための調査事業
（3 年間通じて実施）

ⅱ）内容

〇実施する調査研究の全体像

1．令和 7 年度「ニーズの把握と基盤調査」

対象	主な調査項目	方法
通信制高校生	進路意識／興味分野／オンライン学習環境／進学障壁	アンケート＋グループインタビュー
通信制高校教員	進路支援体制／ICT 連携の可能性／外部連携ニーズ	ヒアリング／意見交換会
地域中小企業	求める人材像／実習受入条件／DX 活用状況	アンケート／商工会経由の座談会・勉強会など
専門学校の卒業生	通信制出身者の進学・就職経験／課題と支援ニーズ	インタビュー／フォーカスグループ
制度調査	LMS・単位制・通信制との連携の制度的枠組み	文献・先進事例・関係者ヒアリング

2．令和8年度「評価とモデル検証調査」

対象	主な調査項目	方法
プログラム受講生	満足度／理解度／達成感／デジタルバッジ取得状況	アンケート＋到達度テスト
指導教員・連携講師	指導のしやすさ／教材の改善点／連携の課題	定期レビュー／記録分析
地域企業先	実習の成果／学生の印象／受け入れの継続意向	ヒアリング／評価シート
通信制高校関係者	接続支援の成果／今後の連携の可能性	定期振り返りミーティング
保護者・地域住民	地域活動への認知／プログラムへの理解度	アンケート（公開報告会等で回収）

３．令和9年度「評価とモデル検証調査」

対象	主な調査項目	方法
卒業生	地域内就職／転出理由／学びの役立ち実感	アンケート＋追跡インタビュー
受入企業	就職後の定着／人材としての評価／学校への要望	フィードバックシート＋ヒアリング
他地域／他専修学校	展開可能性／教育条件／導入障壁	比較事例調査・ベンチマーク分析
行政・自治体	制度接続（助成・人材育成施策等）に関する可能性	担当部署ヒアリング／協議会参加

〇実施する調査研究の新規性

本調査は、すでに国や自治体、関係機関等によって実施されている関連調査（例：高校生の進路希望調査、ICT 環境実態調査など）を踏まえた上で、これらの既存調査では十分に明らかにされていない課題を抽出し、それに対して**実践的かつ制度設計に資する具体的な知見を得ること**を目的として実施する。

具体的には、通信制高校に在籍する生徒の進学意向や ICT リテラシーに関する情報は、全国規模での定量調査では一部存在するものの、**地域（山口県内）における生徒個々の学習実態・生活環境・キャリアに即した定性的な把握や支援ニーズの分析は十分ではない**。

また、既存調査では、進学後の生活やキャリア形成上の課題に対して、どのような支援策が効果的に機能したのかという「支援の効果性」に踏み込んだ検証が乏しいのが現状である。

さらに、学校や支援団体・企業等との連携に関する実態や課題は、**制度的な連携の可能性（例：LMS 連携、企業実習との接続）を前提としたヒアリング調査がなされていない**ことから、**実装可能性の検証に資するデータが不足している**。

本調査では、単なる現状把握にとどまらず、**支援設計のためのエビデンス（証拠）を抽出し、地域・通信制高校・専門学校・企業が連携して支援体制を構築する際の根拠とすること**を目指している。

2-4　開発する教育カリキュラム・プログラム

ⅰ）名称

「通信高校連携型みらい LINK プログラム」（仮称）

県内初の AI×データサイエンスを導入したクロスオーバー型新コース開設をめざして

ⅱ）内容

〇開発準備した教育カリキュラム・プログラム

1．基本構成

①「地域に根ざした職業人材」を育てるための**実践・柔軟・多様性**を兼ね備えたカリキュラム

②学びの入り口を広げ、継続性（定着）と出口（資格・就職）につなげる構成

③通信制高校出身者や社会的移動に課題を抱える若者が“挑戦しやすい仕組み”にする

項目	内容
形式	オンライン×対面のハイブリッド、モジュール（短期単元）型
柔軟性	コース選択制（マイプロジェクト方式）、ユニット受講制、入学後に学ぶ方向性を選べる
評価方法	デジタルバッジ・e ポートフォリオによる可視化＋資格試験
接続性	高校・地域・卒業生との接続（キャリア教育・企業連携・伴走支援）

2．3つのポリシー案

アドミッション・ポリシー	・自分の将来や地域での仕事に関心を持ち、実践的な学びを通じて社会で活躍したいという意欲を持つ者 ・デジタル活用や新しい分野（AI・e スポーツ・動画制作など）への好奇心を持つ者 ・学び直しや段階的な成長に前向きに取り組もうとする姿勢のある者
カリキュラム・ポリシー	・通信制高校出身者の状況を踏まえ、段階的・選択的な学習が可能なカリキュラムとする ・地元企業・団体との連携による体験型授業・実習を重視する ・オンライン学習の活用により、地理的・時間的制約のある学習者にも対応 ・資格取得支援や作品制作を通じて、学びの成果が見える化される構成とする

ディプロマ・ポリシー	・デジタル基礎力を身につけ、ICT を活用できる職業人として地域で活躍できる ・職業実習・地域連携授業を通じて、地元課題に関わる力を持ち、就業意識を持てる ・社会人基礎力・コミュニケーション力を備え、対人関係や協働ができる ・自らのキャリアを描き、地域に根ざした進路選択ができる力を持つ

３．現在想定する科目の詳細（案）

科目名	区分	単位	時間数	目的・概要	学習成果
デジタル基礎Ⅰ（IT パスポート対策）【既存】	講義+実習	2	30	・IT の基本やセキュリティ、基礎知識を学ぶ	IT パスポートレベルの知識習得
デジタル基礎Ⅱ（データ活用入門）【既存】	講義+実習	2	30	・表計算・グラフ・データ処理などの実用スキル	データ操作と簡単な分析ができる
AI リテラシー（生成 AI・G 検定対策）【8 年度】	講義+実習	2	30	・生成 AI の活用と AI 基礎理論を学ぶ	G 検定基礎・AI の利活用力の習得
地元企業連携授業Ⅰ（IT・福祉・観光）【9 年度】	演習	3	45	・地元の現場課題をテーマに、課題や工夫を学ぶ	地域産業と仕事への理解を深める
地元企業連携授業Ⅱ（e スポーツ・動画制作）【9 年度】	演習	3	45	・e スポーツや動画を活用した地域 PR 活動	自分のスキルで地域に貢献する体験
オンライン学習スキル入門 【8～9 年度】	講義+実習	1	15	・自律的な学び方や LMS 活用方法を学ぶ	自分で学ぶ習慣と技術を身につける
地域実習（インターンシップ）【9 年度】	実習	4	60	・実際の企業・施設での現場体験	地元就業への理解・意欲の向上
キャリア形成講座（多様型）【8 年度】	演習	2	30	・SST によって対人力の基礎を培い、SGE によってグループワーク「安心して話し合える場」で自己理解・他者理解を深める ・社会で求められるスキルの体験的理解	対人力＋集団協働力＋自己認識の深化 社会人基礎力の醸成

4. 事業内で開発・製作する学習手法（案）

①選択学習（コース選択）（例）Web 制作／動画編集コース、医療福祉・介護入門コース、起業・地域ビジネス基礎コース 【8～9年度】

②ユニット受講制の仕組みづくり 【8～9年度】

③キャリア育成・伴走支援手法マニュアル（チャットボットや AI カウンセラーを活用した相談の仕組み含む） 【7～9年度】

④通信制高校と接続した学習管理システム（LMS）マニュアル
個人情報管理ガイドも作成 【8～9年度】

2-5　計画の全体像

3か年間の事業計画は以下の通り

1．令和 7 年度事業概要

◇事業実施体制の構築(10 月～)

各3回委員会実施（ハイブリット形式）

◎実施推進委員会

◎プログラム開発委員会

◎調査・連携委員会

＊事務局にて調整して運営

◇「調査研究・連携体制」

・通信制高校生・教員、中小企業、卒業生、地域団体へのニーズ調査

（アンケート・インタビュー）

・オンライン学習環境／ICT リテラシーの実態調査

・通信制・単位制など制度的な活用可能性に関する制度調査

・通信制高校との協定締結

・連携モデル構築– 地域企業

・団体との連携テーマ協議– LMS 整備

・教職員研修

◇「プログラム開発・作成」

・プログラム案の設計

（専門学校現行教育との接続）

・実証教材試作

（AI 基礎・e スポーツ・実習テーマ等）

・試行的実証実施（プレ授業・体験版）＋通信制高校との接続実験

・キャリア形成・伴走支援マニュアル（AI 相談含む）案

〇調査報告書の作成・印刷

〇成果・実績報告書の作成

〇ホームページの作成

（ポータルサイト新規作成含む

２．令和8年度事業概要

◇事業実施体制の構築(6 月～)

各5回委員会実施（ハイブリット形式）

◎実施推進委員会

◎プログラム開発委員会

◎調査・連携委員会

＊事務局にて調整して運営

◇「調査研究・連携体制」

・令和 7 年度調査結果を踏まえた対象拡大調査

（他地域・他校・保護者など）

・初年度プログラムの評価

（満足度・効果測定）

・地域企業と実習先への調査

・企業連携課題テーマで正式連携（MOU 等）

・卒業生メンター制度試行

・通信制高校との接続型プログラム共有

（LMS 接続実装）

・地域企業への関わり方研修

◇「プログラム開発・作成」

・「みらい LINK プログラム（仮）」実証

・企業連携導入授業の実施

（ドローン・動画編集・地域 PR など）

・デジタル資格（IT パス、G 検定等）の取得支援制度の運用

・キャリア形成・伴走支援マニュアル（AI 相談含む）施行

〇トータルキャリア教育の仕組みづくり

〇シラバス・教材の作成

〇成果・実績報告書の作成

〇ホームページの作成

（ポータルサイト新規作成含む）

３．令和9年度事業概要

◇事業実施体制の構築(6 月～)

各5回委員会実施（ハイブリット形式）

◎実施推進委員会

◎プログラム開発委員会

◎調査・連携委員会

＊事務局にて調整して運営

◇「調査研究・連携体制」

・長期的成果の追跡調査

（卒業後の地域定着・就職率）

・全国への展開可能性に関するケース分析

・グループ校（YIC 京都など）へのプログラム展開

・自治体や商工団体と連携した「若者定着教育モデル」の制度化提案

・ガイドラインの整備（学生への関わり方含む）

◇「プログラム開発・作成」

・「みらい LINK プログラム（仮）」本格スタート 1 年目

・柔軟な選択制モデルの構築

・地域定着型連携プログラムの完成

・成果発表会開催

・外部公開講座（地域イベント／フォーラム等）

〇キャリア支援・伴走支援マニュアル（AI 相談含む）作成

〇シラバス・教材の作成

〇成果・実績報告書の作成

〇ホームページの作成

（ポータルサイト新規作成含む）

4．地域制を考慮した他機関・団体との連携（案）

①通信制高校

項目	具体的連携内容
出前授業・キャリア授業	専門学校教員が通信制高校に出向き、e スポーツ、動画編集・AI 活用などの体験型授業を実施することで。進学意欲を喚起。また、通信

	制高校の生徒が専門学校に出向き、専門的な設備や環境を活用した実習や授業に参加することで、より具体的な進路意識の醸成を図る。
LMS の共有・進捗支援	専門学校の LMS を連携校に限定提供し、進捗・課題管理・フィードバックを高校教員と共同で行う。
オンライン個別相談	キャリア形成アドバイザー（仮）が高校生向けに月 1 回の進路相談・体験講座説明会などを実施。チャットボットや AI カウンセラーを活用した相談の施行。
学校接続型企業連携	通信制高校生 × 専門学校生での合同プロジェクト（例：地元イベントの企画・運営など）を実施し、進学前から学びに接続。

②地域企業

項目	具体的連携内容
実習テーマ提供	地元企業が「実際の課題」（例：人手不足、集客、IT 化）を提示。学生が企画・提案し、企業にプレゼンする「実践型授業」を実施。
実習・インターン受入	福祉施設・IT 事業者・観光業者等が実習先となり、単位化された就業体験を受け入れる。
地域企業や団体への研修やガイドラインの整備	YIC 学院より、この層の学生に対する関わり方や特徴に対する理解の研修を実施。またガイドラインを整備し提供する。
地元就職促進のマッチング	卒業後、連携企業が優先採用枠や奨学金返還支援制度を提供し、地域定着につなげる。

③行政・関連団体

項目	具体的連携内容
中小企業支援施策との接続	地方自治体や商工会議所と連携し、企業側にも“学生受け入れのメリット”があるよう補助制度を活用（例：インターン助成等）
DX 推進パスポート・生成 AI バッジの認定支援	資格団体と連携し、資格取得後に「地域 DX 人材」として可視化
モデル展開支援	初年度の調査研究や広域モデル展開を行政と連携して実施。将来的な制度化にも対応。

④YIC グループ内・卒業生

項目	具体的連携内容

プログラムの共同開発	YIC 京都等と共同で e スポーツ・AI・観光などのコンテンツ教材や動画授業を共同制作。
合同イベント開催	山口・京都の両拠点で e スポーツ大会、成果発表会、オンライン座談会などを実施。学生交流の機会を創出。
講師人材・外部連携の相互活用	外部講師や企業協力などを両校でシェアして教育資源を効率化。
進学者情報・卒業生ネットワークの連動	京都・山口両校の卒業生をつなぎ、メンターネットワーク・進路フォロー体制を構築。
卒業生メンター制度	地域で働く卒業生（福祉・IT・起業等）を在校生の相談役・伴走者として位置付け、月 1 面談／イベント協力などを実施。
地域活動・イベントの共催	卒業生が関わる地域事業（祭り、商品開発、動画制作など）に学生が協力し、実践参加の機会を得る。

第3章　今年度の具体的活動内容

3-1　　今年度実施の概要

事業計画書を基本に、実施推進委員会等における委員からの意見に基づき、今年度の計画を進めていった。なお、調査結果および委員会による委員からの助言により、プログラム開発内容の検討を平行して進めていき、委託事業後の知見となるように、運用記録も行った。令和7年度は、「各種調査事業とカリキュラム開発のタタキ案作成」を行うことが出来た。

3-2　　設置・実施した委員会

1）実施推進委員会　3 回

第 1 回	令和 6 年 10 月 31 日（金） 10 時 30 分～12 時 00 分
第 2 回	令和 6 年 12 月 22 日（月） 14 時 00 分～16 時 00 分
第 3 回	令和 7 年 2 月 20 日（金） 14 時 00 分～16 時 00 分

2）プログラム開発委員会　3 回

第 1 回	令和 6 年 10 月 29 日（水） 10 時 30 分～12 時 00 分
第 2 回	令和 6 年 12 月 9 日（火） 10 時 30 分～12 時 00 分
第 3 回	令和 7 年 2 月 18 日（水） 10 時 30 分～12 時 00 分

3）調査・連携委員会　3 回

第 1 回	令和 6 年 10 月 16 日（金） 10 時 30 分～12 時 00 分
第 2 回	令和 6 年 12 月 15 日（金） 10 時 30 分～12 時 00 分
第 3 回	令和 7 年 2 月 16 日（月） 14 時 00 分～15 時 30 分

3-3　実施した調査

（1）通信制高校生徒調査・通信制高校教職員調査　※報告書後述　資料1

調　査　名 ①	**通信制高校生徒調査・通信制高校教職員調査**
調 査 目 的	社会的自立に向けて、通信制高校生がどのようなスキルや準備が不足していると感じているかを把握し、教育プログラムに必要なキャリア支援やソーシャルスキル育成要素を盛り込むための基礎情報とする。 また、教職員向けは、進路支援の実態や課題、ICT 連携の可能性を把握し、連携設計の前提条件を整理する。
調 査 対 象	通信制高校に在籍する生徒（333 名）・教職員（公立 1 校、私立2校、各校 2 名程度）
調 査 手 法	オンラインアンケート＋個別インタビュー
調 査 項 目	・生徒：進学意向／進学の障壁（経済・心理・情報）／関心領域（e スポーツ・動画編集等）／ICT 環境／学習習慣・時間／社会に出る上で必要だと思う力（複数選択）と自己評価／ ・教職員：進路支援の体制と課題／外部機関連携の実績とニーズ／LMS 等 ICT 連携の実施状況と課題
分 析 内 容（集 計 項 目）	・生徒：属性別（学年、居住地等）クロス集計／因子分析による進路希望への影響要素抽出等 ・教職員：課題別／校種・設置主体別／連携可能性レベル別に分類・整理
調 査 結 果	**【1】進学・就職における心理的・経済的障壁と情報アクセスの改善** 通信制高校を選択した理由を尋ねると高校卒業資格の取得だけでなく「自分のペースで学びたい」「登校回数の少なさ」「自分のライフスタイルに合う」などが多くの理由としてあがっており通信制高校の特徴を好意的にとらえる回答があった、中には「全日制での学びが困難」「体調・健康上の理由」の回答も見受けられた。生徒はスマートフォンを授業等でも用いており、通信での日々の学習方法は自宅参考書での学習に週末に行われるスクークーリングが多くもちいられていた。生徒側への端末貸与や通信費補助はなく、通信制高校として一律配布の対象外であった経緯もあり、ICT 活用の前提となる学習環境は必ずしも整っていないようである。 アンケート調査で進路について問うと、多くの生徒が専門学校等への進学に意欲を示す一方で、「授業についていけるか」という学習面（55 名が「とてもそう思う」）や「友人関係に馴染めるか」という心理面（41 名が「とてもそう思う」）で

	の不安を強く抱いている実態が浮き彫りとなった。また、入学金や授業料などの経済的な不安も顕著であり、奨学金情報の不足や手続きの複雑さを課題視する声も挙がっている。 　教職員へのヒアリングでも、日常的に登校しない生徒への伴走支援には限界があり、特に「情報の受け取り」に個人差が生じていることが指摘されている。これらの障壁を解消するためには、単なる情報提供に留まらず、入学前から心理的なハードルを下げるカウンセリングや、個々の経済状況に配慮したきめ細やかな進路相談体制の構築が不可欠と考える。 **【2】デジタルリテラシーの格差解消と ICT を活用した実践的学びの提供** 　高校生の関心事として、「動画編集（81 名）」や「生成 AI の活用（70 名）」、「イラスト・ゲーム制作（93 名）」など、デジタルコンテンツへの非常に高い興味が示されている。しかし、現状の ICT 環境は「スマートフォン（209 名）」の利用が主流であり、ノートパソコンを学校で利用している生徒はわずか 10 名に留まっている。 　この結果、「IT 知識・PC スキル」を社会で必要な能力だと感じている生徒（161 名）に対し、自分にそのスキルがあると自信を持っている生徒（92 名）の間には「69 ポイント」もの大きな認識の差（ギャップ）が生じている。教職員側からも、生徒が PC 操作に習熟していない現状や、学校側の機材更新費用の負担、運用人員の不足といった構造的な課題が報告されている。本事業が目指す「AI×データサイエンス」の導入は、こうした生徒の潜在的な興味を、単なる消費活動（スマホ利用）から専門的な職業スキル（PC 活用）へと昇華させるための極めて重要な架け橋になると考える。 **【3】地域産業の持続可能性を支える“育成・伴走・定着”の連携モデル** 　現在、通信制高校と外部機関の連携はハローワーク等の一部に限定されており、地域企業や専門学校との体系的な連携授業や職業体験は十分に提供できていないのが現状である。その背景には、土日を中心とする通信制高校のスクーリング日程と外部機関の稼働日との不一致や、校外学習における通信制高校生の移動費用の負担といった構造的な課題がある。 　一方、生徒からは「地域の様々な人との交流」や「職場体験」を求める声が寄せられており、教職員も「興味・関心のある分野での体験機会の提供が、生徒の学習意欲や進路意識の向上につながる」と認識している。本事業を通じて、専修学校がハブとなり、通信制高校の柔軟なプログラム設計と地域産業のニーズを繋ぐ「一体型

	支援体制」を構築するとは、若年層の県内進学・就職を促進し、地域産業における人材確保と活性化を実現するための鍵になると考えられる。
開発するカリキュラム・プログラムにどのように反映するか（活用手法）	・教育プログラムにおける関心領域（生成 AI など）や ICT 環境を考慮したカリキュラム構成に活用する。 ・LMS 情報やキャリア支援等における協働領域の明確化、段階的な連携スキームの設計に反映する。

（2）通信制出身専修学校生調査　※報告書後述　資料2

調査名②	**通信制出身専修学校生調査**
調査目的	通信制高校出身の在校生・卒業生が専門学校へ進学した経路や課題、支援の有効性を把握し、学生支援体制の設計に活用する。
調査対象	通信制高校出身の在校生（8 名）および卒業生（1 名）
調査手法	オンライン（事前）アンケート＋個別インタビュー
調査項目	進学の動機・経路／困難だった点（学力・経済・心理）／支援で効果的だったこと
分析内容（集計項目）	時系列・進学ルート別に分析／支援項目ごとの有効性整理
調査結果	事前アンケートおよびインタビューの結果を基に、専門学校入学前から在学中に当事者が感じた困難とその要因を明らかにした。 入学前の段階は環境変化に対する不安からすべての面で困難が強く表れている。中でも学習面では、入学前には調査対象全員が何らかの学力不安を抱えており、特に「国語・数学などの基礎学力」に対する不安（67%）と最も高かった。心理面においては、入学時には、対象者の 80%近くが新しい環境への適応に不安を感じており、入学前から継続する心理的困難がみられる。 特に対人関係不安については、40%の対象者が「難しさを感じた経験がある」と回答しており、在学初期における大きな課題で困難度合が高い傾向がみられる。経済面については家庭の状況による影響で、困難の程度には個人差がある。

	入学後、授業が始まり専門的な学びにふれることで、学習面の困難が徐々に軽減されていく。また、経済面は多くの場合、入学前の段階である程度解消されていることが多い。在学中に最も困難が大きく、長く続くのは心理面である。特に入学後から学校生活に慣れるまでに強く表れ、その後も在学中の短時間では解消されるものではないことが明らかになった。
開発するカリキュラム・プログラムにどのように反映するか（活用手法）	入学前後の支援内容（心理的支援・生活支援・学習支援等）強化の設計に反映する。

（3）地元中小企業調査　※報告書後述　資料3

調査名 ③	**地元中小企業調査**
調査目的	地域企業が求める人材像、教育連携の意向、就職支援のニーズを把握し、実践教育プログラム構成に活かす。
調査対象	地元中小企業（61 社）
調査手法	アンケート調査
調査項目	求めるスキル・マインド／PBL や実習受け入れへの考え／就職後の育成・定着支援の期待
分析内容（集計項目）	業種別傾向／人材ニーズとスキルギャップのマトリクス化
調査結果	回答企業の多くが、新規事業の拡大よりも、既存事業基盤の強化と内部経営資源の最適化を重視している状況が読み取れる。特に「人材育成・専門スキル再構築・リスキリング」が上位に位置している点は、人材不足を背景に、人材の確保に加えて既存人材の育成・再教育を経営課題として捉えている企業が多いことを示している。 ◆人材確保・採用に関する実態 人材が不足している職種としては、専門性を要する技術職現場人材や、収益に直結する営業人材の不足が顕著であった。 採用において企業が重視する要素

	は、専門知識や高度な技能よりも、「誠実さ・素直さ」「チームワーク」「コミュニケーション能力」といった基礎的なポータブルスキルであることが明らかとなった。 専門学校出身者については、多くの企業が採用実績を有し、今後の受入にも前向きな姿勢を示している。一方、通信制高校出身者については、採用実績の少なさから評価や育成方法に戸惑いを感じている企業が一定数存在するものの、受入自体に否定的な企業は少ない。通信制高校出身者の基礎能力やポータブルスキルを整理・可視化し、企業と連携したキャリア形成支援の仕組みを構築することが求められる。 ◆キャリア形成支援への関心 専修学校との連携・協業についてインターンシップ・職場体験等の受入意向については、約7割の企業が、何らかの形での協力可能性を示している。一方で、「条件付き」が多数を占めていることから、指導体制の確保や業務負荷、受入期間などが、取組導入に際しての主な課題となっていることが読み取れる。今後は、専修学校側が企業の負担軽減を意識した「低負荷型の企業実習」としてスモールステップで連携できる受入設計や支援体制を提示することが重要と思われる。 ◆従業員の定着率と離職要因 新卒・中途採用者の定着率については約9割の企業が自社の定着率を「平均以上」と認識している。若手社員の離職要因として最も多かったのは「入社後の仕事とのギャップ」であり、次いで「給与が安い」、「人間関係構築」が続いた。採用段階での丁寧な説明と、入社後の継続的なフォローアップ体制の重要性を示唆している。 ◆DX 活用とデジタル人材確保の実態 約5割の企業がDXが進んでいると前向きな回答をしている。地域中小企業においても、DX への意識は高まりつつあることが示された。 クラウドサービス、Web 会議システム、電子契約といった、業務効率化やペーパーレス化に直結するツールは約7割前後の企業で導入が進んでいる。一方で、RPA や AI 関連ツールについては、「全く使っていない」とする回答が多く、特に AI 関連ツールでは 8 割以上の企業が未導入であった。「予算の確保」や「人手不足」といったリソース面の制約が、推進上の大きな課題となっている。デジタルツールの導入は進みつつあるものの、AI や RPA などの高度な技術活用は限定的であり、「デジタル人材の不足」や「体系的な育成体制の未整備」が DX 推進の障壁となっている。また、外部教育機関との連携が十分に進んでいないことも、地域全体でのデジタル化を進める上での課題の一つである

開発するカリキュラム・プログラムにどのように反映するか（活用手法）	企業連携授業・インターン内容の設計／キャリア支援プログラムへ企業視点を導入する。

（4）オンライン学習環境／ICT リテラシー実態調査（通信制高校） ※報告書後述　資料4

調査名 ④	**オンライン学習環境／ICT リテラシー実態調査（通信制高校）**
調査目的	通信制高校におけるオンライン学習環境の整備状況や ICT リテラシーの実態を把握する。
調査対象	通信制高校 3 校 2025年11月19日（金）：聖和高等学校 2025年11月25日（火）：誠英高等学校、山口松風館高等学校
調査手法	ヒアリングシートを用いた対面方式の個別ヒアリング
調査項目	オンライン学習の導入状況、ICT 機器の整備状況、学習管理システム（LMS）の利用状況、教職員・生徒の ICT リテラシー、オンライン支援の課題と可能性等
調査結果	3 校とも通信制生徒は「GIGA スクール構想」などの端末配布対象外であったため、学校から生徒への端末貸与が行われていない。これがオンライン学習やデジタルの活用を進める上での最大の物理的障壁となっている。 生徒はスマートフォンの操作には慣れているが、レポートのデジタル作成、ファイルの添付、タイピングといった PC 特有のスキルには大きな個人差があり、不慣れな生徒も多い。 ICT 環境を維持・管理するための予算（初期費用・メンテナンス費）や、システムを使いこなすための教職員側の人的リソースの確保が、さらなる活用拡大を阻む要因となっているとおもわれる。 ヒアリング調査から明らかになった「1 人 1 台端末の不在」「IT スキルリテラシー格差」「人的・コスト的限界」といった課題は、専門学校へのスムーズな移行を阻む大きな障壁となっている。これらの課題を解決し、地域に選ばれる専修学校となるためには、以下の方針に基づくカリキュラム構築が必要である。

開発するカリキュラム・プログラムにどのように反映するか（活用手法）	出前授業、LMS 連携開発・設計の参考資料とする。

（5）LMS・単位制・通信制等に関する制度的枠組みに関する文献調査　※報告書後述　資料5

調査名 ⑤	**LMS・単位制・通信制等に関する制度的枠組みに関する文献調査**
調査目的	LMS（ラーニングマネジメントシステム）、単位制、通信制高校・専門学校の連携に関する制度的枠組みを調査し、今後の教育プログラム設計に資するための制度的条件・論点・活用可能な仕組みを明らかにする
調査対象	LMS 活用に関する制度、単位制と単位互換に関する法的整理、通信制との制度的連携、及びこれらの教育現場での実践事例を含む
調査手法	WEB 上での文献・事例収集を中心とし、関連する報告書・省庁発行資料・制度ガイドライン等を含む。
調査結果	教育機関には、テクノロジーの進展や学習者の多様化に対応した柔軟かつ質の高い教育プログラムの提供が強く求められている。特に、デジタルトランスフォーメーション（DX）の波は教育分野にも及び、LMS（ラーニングマネジメントシステム）を活用した教育の効率化・高度化や、単位制・通信制の仕組みを最大限に利用した多様な学習機会の提供が求められている。 【実施した調査】 ①教育システム基盤（LMS）を活用したサポート体制の項目に関する調査 LMS が学習評価や進捗管理を担うシステムとして機能するために、現行法規（学校教育法、各種設置基準など）が定める要件や、文部科学省等から示されているガイドライン（遠隔授業に関する規定など）がどのように適用されるのかを詳細に調査。 ②単位制・カリキュラムに関する制度設計調査 専門学校および高等教育機関における単位認定の枠組み、特に単位互換制度や既修得単位の認定に関する法的根拠と運用事例の調査。 ③通信制教育との制度的連携の可能性と実践事例

	現状 通信制高校や大学との教育連携において、どのような制度的要件（教員、施設、授業時間など）が求められるのか、また、どのような教育実践事例が存在し、既存の教育プログラムにどのように応用可能か調査。
開発するカリキュラム・プログラムにどのように反映するか（活用手法）	LMS 連携開発・設計の参考資料とする。

※なお、事業計画書に記載の「地域支援機関調査」は地域団体との調整後、3 月 19 日（木）の地域団体が集まる山口地域職業能力開発促進協議会にてヒアリングを実施する予定である。

3-4　開発に際して検討した実証講座の内容

1. カリキュラム案の設計

①実施内容

・既存の情報系・DX 系カリキュラムの棚卸しと再構成を委員会・教務部門で検討

（項目：IT パスポート対応科目、ドローン、SNS 活用等）

・通信制高校卒業生に多い課題（学力差・継続力）に対応したモジュール式／選択制の導入を委員会・教務部門で検討

・「入学後コース選択型」など可変性のある構造を組み込む

（例：探究 → 専門選択 → 実践）施策を委員会・教務部門で検討

②会議・調査結果を踏まえ次年度に向けて目指すもの

・カリキュラムマップ（2 年制／1 年コース対応）

・年間時間割設計案（75%オンライン構成）

・各科目シラバス（AI、企業連携、**ゲーミフィケーションの有効活用**など）　**※後述検討資料** 資料6

2. 実証教材試作（AI 基礎）

①実施内容

・調査結果を踏まえて、下記の教材設計・試作を行った。

① デジタル基礎：通信制高校生のスマホ活用のセキュリティ対応教材　**※後述添付** 資料7

②調査結果を踏まえ次年度めざすもの

・教材試作（AI リテラシー、デジタル基礎、各分野 2～3 本ずつ）

・YouTube 限定公開の授業動画（15 分×3 本構成）

③概要（8 年度の実証へ展開）

実証講座の対象者	通信制高校生、入学希望者
期間（日数・コマ数）	令和 8 年度（約 3～4 か月間）
実施手法	教材共同制作（動画、スライド、演習課題等）
想定される受講者数	教材制作者、講師、支援者　約 5～10 名

3. 実証実施（プレ授業・体験版）＋通信制高校との接続実験

①実施内容

・模擬授業／出前授業については調査結果を踏まえた教材開発が 2 月となったため、

その準備と内容の精査、実施計画を実施した。

（令和 8 年度山口県松風館高等学校にて実施）

・令和 8 年度に通信制高校と YIC の間で仮想 LMS クラスを設置し、双方向課題配信・

提出・フィードバックを試行、高校生・教員双方に対しフィードバックアンケート・インタビ

ューを実施

②令和 8 年度までに目指すもの

・授業動画＋フィードバック結果検証・LMS 実証記録（操作性・課題回収率など）・接続モデル案作成

③概要（令和 8 年度実施）

実証講座の対象者	**山口県立山口松風館高校の生徒（予定）**
期間（日数・コマ数）	約 2 日間（4 コマ程度）
実施手法	出前授業またはオンライン授業（LMS 併用）・デジタル分野体験授業・キャリア講座・個別相談
想定される受講者数	20 名程度

4. キャリア形成・伴走支援マニュアル（案）

①マニュアル内容の精査・計画作成を実施

・【入学前】：通信制高校等への出張キャリア相談（対面・オンライン）、LMS 連携によるキャリア基礎教育（e ラーニング）導入

・【在学中】：マイプロジェクト形式のキャリア設計支援、週次または月次面談による進捗管理、AI カウンセラー試験運用

・【卒業後】：U ターン相談・編入・起業・就職支援を含む「卒業生ネットワーク」構築と連携スキーム設計

・チャットボットや生成 AI を活用した「非対面型相談支援体制」の構成案づくり

（例：AI チャットキャリア Q&A）

②成果物

・**キャリア支援マニュアル第 1 版**（全 65 ページ）完成　　**※後述添付** 資料8

：入学前／在学中／卒業後をカバーする一貫モデル

：AI カウンセラー導入の試行報告書・設計案含む

3-5　開発した教育カリキュラム・プログラム／調査研究結果の検証

1. 調査結果の検証（令和 7 年度は調査結果の検証のみ）

・調査結果の検証については、分科会である「調査・連携委員会」（委員 12 名、地元企業、行政（県・教育庁）所属にて、①調査（アンケート・インタビュー）の内容検討②各種実施調査速報の分析③各種調査結果最終版の検討・分析を行った。その後実施推進委員会にて承認を得た。全ての委員より高評価を得ることが出来た。

・この調査結果を令和 8 年度のプログラム開発（①入学前キャリア教育（通信制高校接続実証）②デジタルリテラシー基礎科目実証③キャリア形成講座（SST・SGE 等）実証等）へ反映させる。また、8 年度の検証体制は下記の通りとする。

2. 検証の体制と実施内容（2 方向からの評価を実施する）

①受講者（学生）からの評価

・目的：学習者自身の実感・満足度・理解度・達成度などを可視化し、プログラムの質を改善する

・実施内容

項目	内容
受講後アンケート（講座ごと）	講座終了時にオンライン（Google フォーム等）で満足度・難易度・改善要望などを回収
LMS 上での定期フィードバック	単元ごとに 1 分で答えられる「ミニふり返り」を設定し、負担を軽く持続可能に
中間・年度末レビュー面談	指導教員・キャリア担当が学生 1 人ずつにヒアリング（フォーマット化）し、到達度と悩みを把握
サンプル追跡調査	卒業後 1 年後の「活用度／定着度／現場での役立ち実感」などを卒業生アンケートで確認（長期評価）

②企業・業界団体等からの評価

・目的:学習者自身の実感・満足度・理解度・達成度などを可視化し、プログラムの質を改善する

・実施内容

項目	内容
講座評価シート	実習受入先企業・講座監修者に「内容の業界適合度」「即戦力レベル」「改善点」などを定量評価してもらう
地元企業連携成果物レビュー会	地元企業・団体に向けて学生がプレゼン → その場で評価・助言 → フィードバックを教育側に反映
業界別ヒアリング	年 1 回程度、福祉・IT・観光等の分野ごとに企業訪問ヒアリングを実施し、学習成果と現場ニーズのズレを共有
外部講師によるカリキュラムレビュー	定期的に非常勤・産業界出身講師に内容チェックとコメントを依頼（外部性の確保）

※上記により、双方向からのフィードバックが可能な体制を構築する。

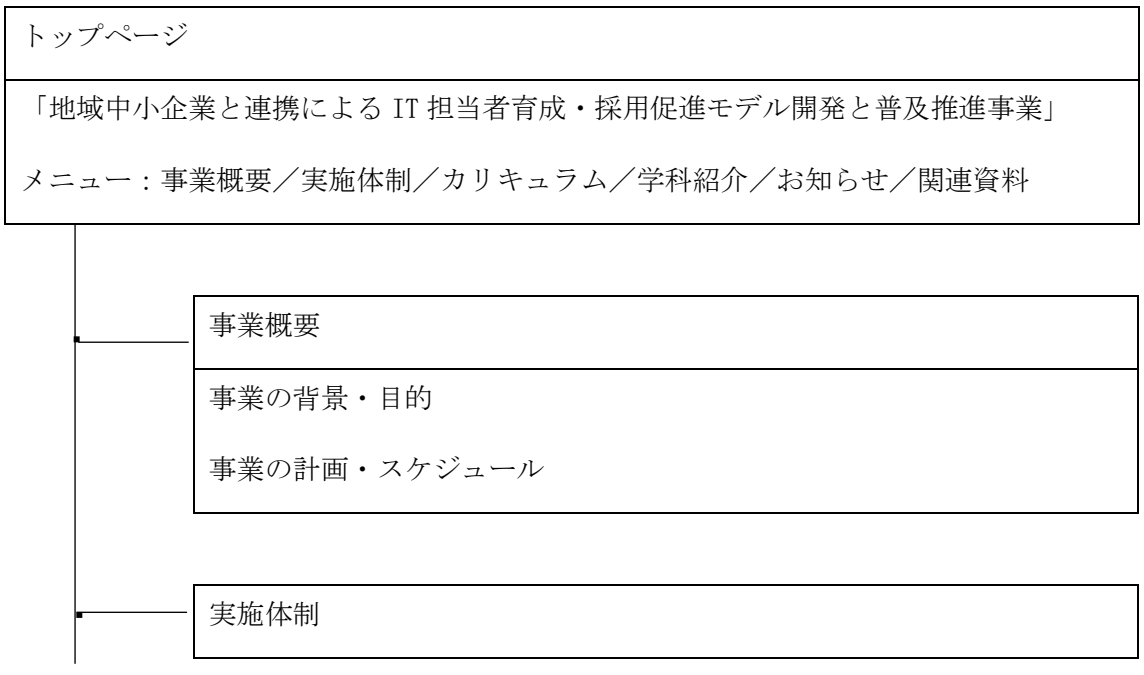
3-6　ホームページの作成他

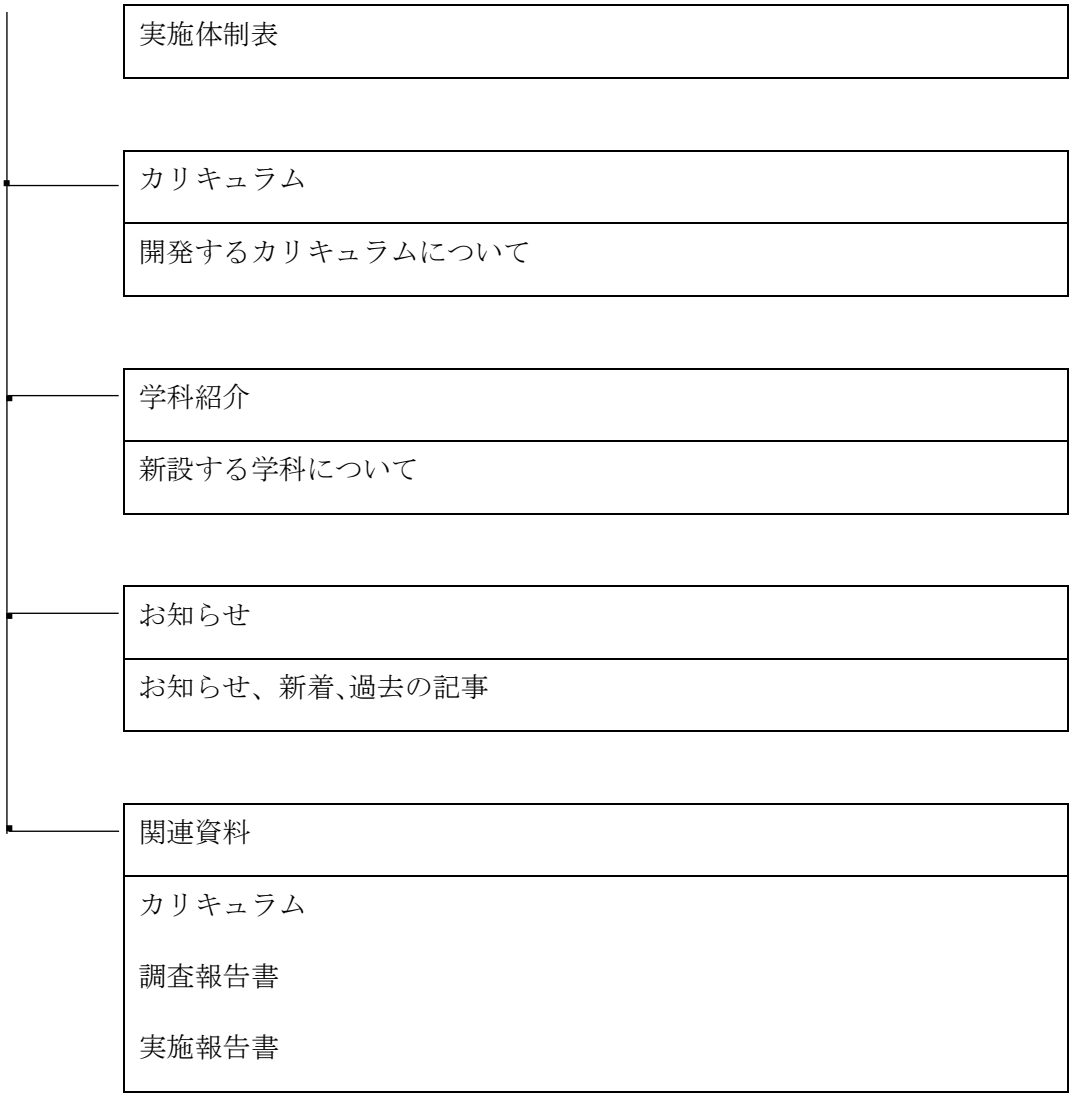
（1）ホームページ URL

下記のとおりホームページを作成した。

URL：http://yic-hsc.com/

（2）ページ構成





（3）周知チラシの作成　資料9

添付のとおり周知用のパンフレットを作成した。

第4章　事業終了後に実施予定の取組及び成果の活用方針・手法

4-1　事業終了後の取組と成果の活用方法

1. 開発した教育プログラム・調査結果の活用方法

令和 7 年度に得られた実証結果および評価データを基に、次年度以降本格運用および横展開に向けた活用を進める。

YIC 情報ビジネス専門学校における既存（新規含む）コース（マイプロジェクト・ハイブリッドスタディコース等）に、本事業で開発した教育プログラム（改善版）を段階的に導入する。さらに、下記のとおりの活用を検討・実施する。

〇活用先別の活用方針

活用先	活用方法
通信制高校	・接続型教育モデル（出前授業・LMS 連携）の実証結果を基にした導入提案・キャリア教育教材・進路支援動画の提供
YIC グループ校（京都校など）	・実証結果を反映した教育プログラムの他分野・他校への展開・教材共用および教職員研修での活用
他専修学校・教育機関（県内外）	・改善版カリキュラム、教材、制度設計マニュアルの共有・導入希望校との研究会・勉強会の実施
自治体・行政機関	・実証結果を踏まえた若者定着モデルとしての提案・教育施策・人材確保施策の検討材料として提供
地元企業・団体	・実証事例・学生成果・企業評価結果の共有・連携授業・実習導入のガイドライン提供
学会・外部機関	・実証結果の研究発表・報告・「通信制高校×専修学校×地域企業」モデルとして成果共有

2. 事業終了後のフォローアップ体制

今年度の結果を受け令和8年度に実証結果を踏まえた改善版モデルを整理し、令和9年度の本格実施および横展開に向けたフォローアップ体制を整備する。

担当	役割
YIC 学院事務局	全体統括、教育プログラム改善、外部連携窓口
キャリア形成アドバイザー	在校生の伴走支援、進路相談、企業連携調整

卒業生メンターネットワーク	在校生支援、地域活動協力、就職・定着支援
通信制高校等との継続協定	接続型キャリア教育の継続実施、教材共有
地域企業等の受入パートナー	実習・連携授業の継続提供、共同改善会議の実施
地域若者サポートステーション等支援機関	卒業後の就職支援、再キャリア相談、地域定着支援

第5章　令和7年度事業実施に伴う成果物

5-1　通信制高校生徒調査・通信制高校教職員調査　資料1



文部科学省委託事業
令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム）
『通信制高校連携型キャリア形成支援による地域若者人材育成モデルの構築事業』

通信制高校向け実態調査（進路・ICT 環境・外部連携）（アンケート・ヒアリング調査）
報告書

学校法人 YIC 学院



目次

1. 事業の趣旨……1
2. アンケート調査の目的……1
3. 通信制高校生ニーズ等のアンケート調査……2
　3−1. 調査方法……2
　3−2. 調査項目……2
　3−3. 通信制高校生アンケート調査結果……4
　3−4. 通信制高校生アンケート調査結果（クロス集計）……52
　3−5. 通信制高校教職員ヒアリング調査結果……74
4. 総評……80

1. 事業の趣旨

20 歳人口の減少や地域格差の進行により、地方の若年層が希望する進学先を地域内に見出せず、県外進学や就職によって地域を離れる傾向が強まっている。その結果、地域産業における人材の空洞化や生活サービスの維持困難といった課題が顕在化しており、地域に根差した教育機関がその受け皿として果たすべき役割はかつてなく大きくなっている。特に、通信制高校など多様な背景を持つ若者に対して、接続性の高い進学ルートと職業的自立につながる実践的な学びの場を提供することが急務である。

本事業は、通信制高校との連携を基盤に、入学前からのキャリア教育、在学中の柔軟なプログラム設計（オンライン学習・コース選択制・企業連携型の導入）、AI や ICT を活用したデジタルリテラシー育成、地域企業（拠点施設含）との協働を通じた連携授業などを展開し、「県内初の AI×データサイエンスを導入したクロスオーバー型新コース」を目指すとともに、「地域に選ばれる専修学校」づくりを推進するものである。また、卒業後のキャリア定着や地域貢献までを見据えた"育成・伴走・定着"の一体型支援体制を構築し、若年層の社会的移動の促進と地域産業の人材確保・活性化に資する教育モデルの構築を目指す。

2.　アンケート調査の目的

本業務は、通信制高校に在籍する生徒および教職員を対象として、進学意向や進学に対する障壁、障害特心、学習環境・習慣、社会自立に向けてどのようなスキルや準備が不足していると感じているか、ならびに学校側の進路支援の体制と課題や外部機関連携へのニーズ、学習管理システム（LMS）等 ICT 連携の実施状況や課題等を把握し、今後の教育プログラム設計に活かすことを目的とする。

（1）通信制高校生
社会的自立に向けて、通信制高校生がどのようなスキルや準備が不足していると感じているかを把握し、教育プログラムに必要なキャリア支援やソーシャルスキル育成要素を盛り込むための基礎情報とする。

（2）通信制教職員
進路支援の実態や課題、ICT 連携の可能性を把握し、連携設計の前提条件を整理する。

1

3. 通信制高校生ニーズ等のアンケート調査

3－1. 調査方法

【1】調査手法

① 通信制高校生：学生アンケート協力依頼のプリント配布後、Google フォームにて
アンケート調査を実施した。
② 通信制教職員：対面にてヒアリング調査を実施した。

【2】調査対象

山口県内の通信制高校(3校)を対象とした。

【3】アンケート・ヒアリング実施(内訳)

対象 ……学校法人穴藤学園 聖光高等学校(69 名)
学校法人三田尻学園 誠英高等学校(76 名)
山口県立 山口松風館高等学校(188 名)
合計 ……3校
回答数……333 件(アンケート)

【4】調査日程

令和 7 年 11 日 11 日～令和 7 年 11 月 26 日

3－2. 調査項目

【1】通信制高校生 アンケート調査

1 学生情報
・学年、学科コース、性別、居住地、通学時の方法 ・学習習慣、時間の把握 ・学校のICT設備、オンライン学習環境の把握
2 学生が現在考えている進路の意向の把握
・希望する進路 ・将来目指す進路(職業)の分野 ・学校の進路指導に対する満足度
3 進学の障壁となる要因の把握

・専門学校進学に障壁となる要因(情報・学習面・経済面・心理面等)
4 通信制高校の学生たちが興味を持っているものや、どのような将来を抱いているかを把握
・興味を持っている関心事(AI、e-Sports、動画編集名等) ・余暇や自由時間の過ごし方 ・将来就きたい業界、やってみたい職業
5 社会へ出る上で必要と思う力「社会人基礎力(12の能力要素)」と自己評価
・地域社会や職場で仕事をしていくために必要だと思う能力(スキル) ・現在の自分自身の能力評価(スキル) ・自分の能力(スキル)を伸ばすために取り組んでいること

【2】通信制教職員 ヒアリング調査

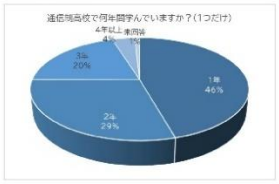
1 学校・教職員情報
・学校、所属・役職、所在地、教職員数 等
2 生徒への進路指導体制・取り組みの現状、課題、必要な支援
・進学就職等の卒業後の進路 ・目指す進路(職業)の分野 ・生徒の進路決定で特に難しい点 ・今後必要と思う支援
3 企業・地域団体・行政・大学などとの連携実態とニーズ
・連携経験がある外部機関及び連携する上での課題 ・地元の専門学校と新たに連携したい分野や内容
4 授業や進路支援での ICT 活用状況、設備・スキル・運用課題
・授業や進路指導におけるICT活用度 ・利用しているツール(LMS、Google、Teams、Zoom、その他) ・必要と思う授業改善やICT環境の改善内容

3－3. 通信制高校生アンケート調査結果

【1】学生情報

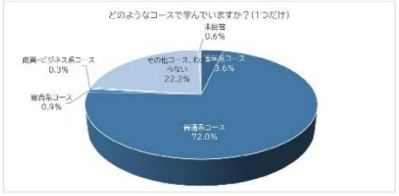
【Q1】 通信制高校で何年間学んでいますか？(1 つだけ)

1年	150 名
2 年	97 名
3 年	66 名
4 年以上	13 名
未回答	3 名



【Q2】 どのようなコースで学んでいますか？(1 つだけ)

進学系コース	12 名
普通系コース	237 名
総合系コース	3 名
商業・ビジネス系コース	1 名
医療・福祉系コース	0 名
情報系コース	0 名
調理系コース	1 名
その他コース、わからない	73 名
未回答	2 名



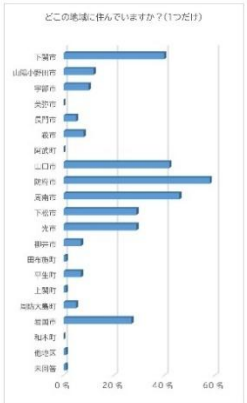
【Q3】 性別を教えてください。(1 つだけ)

男	115 名
女	191 名
答えたくない	23 名
未回答	0 名



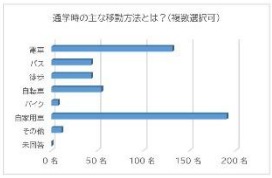
【Q4】 どこの地域に住んでますか？(1 つだけ)

下関市	40 名
山陽小野田市	12 名
宇部市	10 名
美祢市	0 名
長門市	5 名
萩市	8 名
阿武町	0 名
山口市	42 名
防府市	58 名
周南市	46 名
下松市	29 名
光市	29 名
柳井市	7 名
田布施町	1 名
平生町	7 名
上関町	1 名
周防大島町	5 名
岩国市	27 名
和木町	0 名
他地区	1 名
未回答	1 名



【Q5】 通学時の主な移動方法とは？(複数回答可)

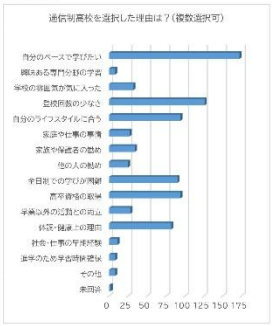
電車	131 名
バス	43 名
徒歩	43 名
自転車	54 名
バイク	7 名
自家用車	190 名
その他	11 名
未回答	0 名



【2】学習習慣、時間の把握

【Q6】 通信制高校を選択した理由は？(複数回答可)

自分のペースで学びたい	172 名
興味ある専門分野の学習	8 名
学校の雰囲気が気に入った	32 名
登校回数の少なさ	126 名
自分のライフスタイルに合う	94 名
家庭や仕事の事情	27 名
家族や保護者の勧め	34 名
他の人の勧め	25 名
全日制での学びが困難	90 名
高卒資格の取得	94 名
学業以外の活動との両立	28 名
体調・健康上の理由	82 名
社会・仕事の早期経験	11 名
進学のため学習時間確保	8 名
その他	8 名
未回答	2 名

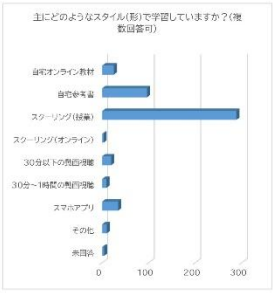


≪その他内容≫
・他の高校【全日制、定時制】に落ちたため、就職前に高校に行くことは決めていたから通信制を選んだ
・前の学校で色々あったため
・全日に行っていたが自分に合わなかったから
・学校嫌いだから先生も子供も人間も嫌い
・転校

【Q7】 主にどのようなスタイル(形)で学習していますか？(複数回答可)

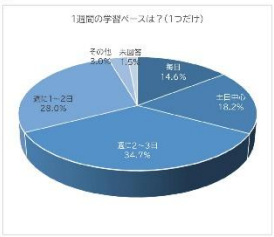
自宅オンライン教材	25 名
自宅参考書	96 名
スクーリング(授業)	288 名
スクーリング(オンライン)	3 名
30分以下の動画視聴	19 名
30分～1時間の動画視聴	9 名
スマホアプリ	34 名
その他	10 名
未回答	4 名

≪その他内容≫
・いろいろ
・レポート
・教科書、授業プリント、レポート
・塾



【Q8】 １週間の学習ペースは？(1 つだけ)

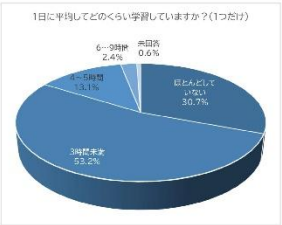
毎日	48 名
土日中心	60 名
週に2～3日	114 名
週に1～2日	92 名
その他	10 名
未回答	5 名



≪その他内容≫
・1 週間で一気に
・4～5
・4～5 日
・していない
・やろうと思った時
・週に 3～4 日
・週に 4～6 日ほど、アルバイトのあいまに
・週に 4 日から 5 日
・平日のみ
・平日中心

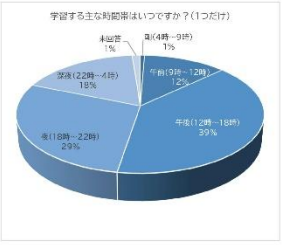
【Q9】 １日に平均してどのくらい学習していますか？(1 つだけ)

ほとんどしていない	101 名
3時間未満	175 名
4～5時間	43 名
6～9時間	8 名
10時間以上	0 名
未回答	2 名



【Q10】 学習する主な時間帯はいつですか？(1 つだけ)

朝(4時～9時)	2 名
午前(9時～12時)	41 名
午後(12時～18時)	130 名
夜(18時～22時)	94 名
深夜(22時～4時)	58 名
未回答	4 名

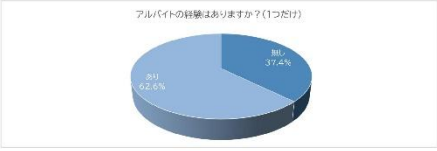


【Q11】 アルバイトの経験はありますか？(1 つだけ)

【Q12】 どのようなお仕事のアルバイトをしていますか

無し	123 名
あり	206 名
未回答	0 名

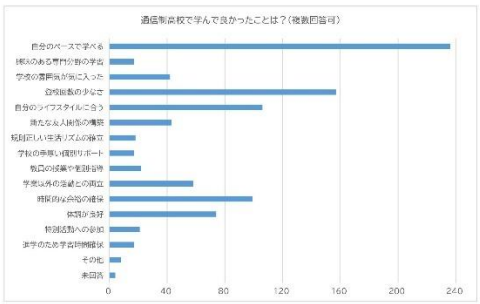
アパレル
アミューズメントスタッフ
レストランスタッフ
イベントスタッフ
ガストのフロアで接客業務
ガソリンスタンド
カフェ
カフェ、書店、ジム受付
ケーキ屋、コンビニ
コメダ珈琲店
コンビニ
コンビニ、キッチンカー
サービス業
スーパー
スシロー
スターリーカフェ
セブンイレブン
チェーン飲食店
ドラッグストア
バー
はま寿司
はま寿司とセブン
パンを製作
ファストフード店
ファミリーマート
フード系
プールの監視員、飲食店
プールの受付
ポスティング
ホテル清掃 居酒屋ホール
マックスバリューのデリカ
マルキと花子
レジ・品出し
介護
海人
喫茶店
居酒屋
業務用スーパー
警備員
現場
工場
広告の挟み込み
皿洗い
寿司屋
書店店員
焼肉屋
食品工場
水道工事
清掃 調理
接客業
設計関係
全部
惣菜
中古ホビーショップ
通夜、葬儀の受付
塗装
馬の世話
販売仕事。
服飾関係
弁当を作る
老人ホーム 厨房
飲食業
飲食業、電化製品店
飲食店、給食室
ラーメン
家電量販店で主に品出し、接客
就労継続支援 B 型【現在は金魚ちょうちんの作成等】
アルバイトの求人やってるとこの半分は最悪なとこ特にココス



【Q13】通信制高校で学んでよかったことは？（複数回答可）

自分のペースで学べる	236 名
興味のある専門分野の学習	17 名
学校の雰囲気が気に入った	42 名
登校回数の少なさ	157 名
自分のライフスタイルに合う	106 名
新たな友人関係の構築	43 名
規則正しい生活リズムの確立	18 名
学校の手厚い個別サポート	17 名
教員の授業や個別指導	22 名
学業以外の活動との両立	58 名
時間的な余裕の確保	99 名
体調が良好	74 名
特別活動への参加	21 名
進学のため学習時間確保	17 名
その他	8 名
未回答	4 名

≪その他内容≫
・外に出るようになった
・ない
・良い先生が多い

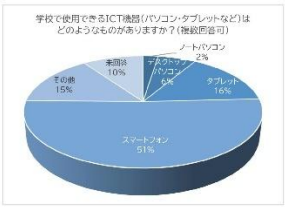


【3】学校の ICT 設備、オンライン学習環境の把握

【Q14】学校で使用できる ICT 機器（パソコン・タブレットなど）はどのようなものがありますか？（複数回答可）

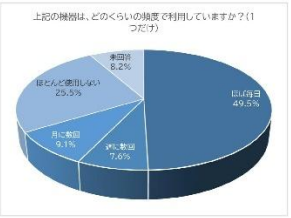
ノートパソコン	10 名
デスクトップパソコン	25 名
タブレット	64 名
スマートフォン	209 名
その他	61 名
未回答	40 名

≪その他内容≫
・なし
・無い
・分からない



【Q15】Q14 の機器は、どのくらいの頻度で利用していますか？（1 つだけ）

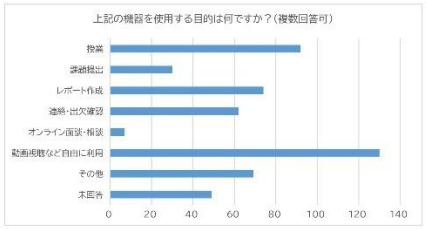
ほぼ毎日	163 名
週に数回	25 名
月に数回	30 名
ほとんど使用しない	84 名
未回答	27 名



【Q16】Q14 の機器を使用する目的は何ですか？（複数回答可）

授業	92 名
課題提出	30 名
レポート作成	74 名
連絡・出欠確認	62 名
オンライン面談・相談	7 名
動画視聴など自由に利用	130 名
その他	69 名
未回答	49 名

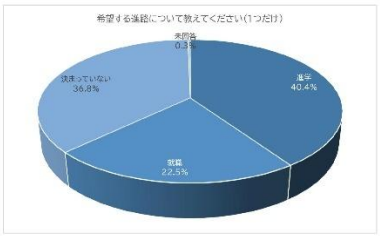
≪その他内容≫
・アンケート
・調べ物
・分からない
・なし
・現実逃避
・部活動



【4】学生が現在考えている進路の意向の把握

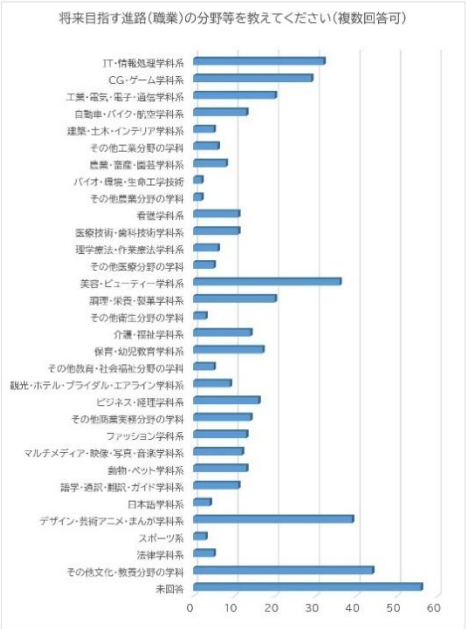
【Q17】希望する進路について教えてください（1 つだけ）

進学	133 名
就職	74 名
決まっていない	121 名
未回答	1 名



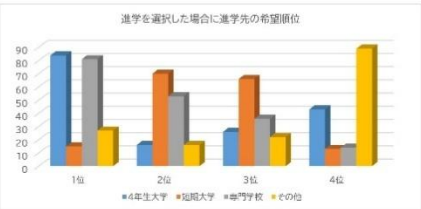
【Q18】将来目指す進路(職業)の分野を教えてください(複数回答可)

IT・情報処理学科系	32 名
CG・ゲーム学科系	29 名
工業・電気・電子・通信学科系	20 名
自動車・バイク・航空学科系	13 名
建築・土木・インテリア学科系	5 名
その他工業分野の学科	6 名
農業・畜産・園芸学科系	8 名
バイオ・環境・生命工学技術	2 名
その他農業分野の学科	2 名
看護学科系	11 名
医療技術・歯科技術学科系	11 名
理学療法・作業療法学科系	6 名
その他医療分野の学科	5 名
美容・ビューティー学科系	36 名
調理・栄養・製菓学科系	20 名
その他衛生分野の学科	3 名
介護・福祉学科系	14 名
保育・幼児教育学科系	17 名
その他教育・社会福祉分野の学科	5 名
観光・ホテル・ブライダル・エアライン学科系	9 名
ビジネス・経理学科系	16 名
その他商業実務分野の学科	14 名
ファッション学科系	13 名
マルチメディア・映像・写真・音楽学科系	12 名
動物・ペット学科系	13 名
語学・通訳・翻訳・ガイド学科系	11 名
日本語学科系	4 名
デザイン・芸術アニメ・まんが学科系	39 名
スポーツ系	3 名
法律学科系	5 名
その他文化・教養分野の学科	44 名
未回答	56 名



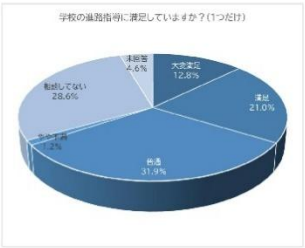
【Q19】進学を選択した場合に進学先の希望順位

	1位	2位	3位	4位	未回答
4年生大学	84	16	26	43	160
短期大学	15	70	66	13	165
専門学校	81	53	36	14	145
その他	27	16	22	89	175



【Q20】学校の進路指導に満足していますか？(1つだけ)

大変満足	42 名
満足	69 名
普通	105 名
やや不満	4 名
不満	0 名
相談してない	94 名
未回答	15 名

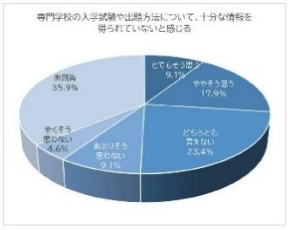


【5】進学の障壁となる要因の把握

【Q21】専門学校進学に障壁となる要因を教えてください(専門学校進学希望者)

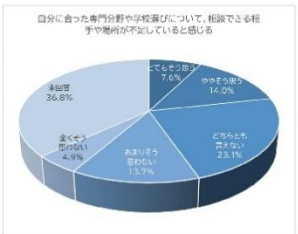
①-1　専門学校進学に関する情報や必要な支援
専門学校の入学試験や出題方法について、十分な情報を得られていないと感じる

とてもそう思う	30 名
ややそう思う	59 名
どちらとも言えない	77 名
あまりそう思わない	30 名
全くそう思わない	15 名
未回答	118 名



①-2　自分に合った専門分野や学校選びについて、相談できる相手や場所が不足していると感じる

とてもそう思う	25 名
ややそう思う	46 名
どちらとも言えない	76 名
あまりそう思わない	45 名
全くそう思わない	16 名
未回答	121 名



①-3　進学後に役立つ「学校見学・体験授業」の情報収集や参加に困難を感じている

とてもそう思う	24 名
ややそう思う	43 名
どちらとも言えない	90 名
あまりそう思わない	37 名
全くそう思わない	14 名
未回答	121 名

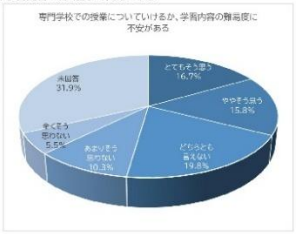


進学に向けて、学校(通信高校)に支援を強化してほしいことはありますか？(自由記載)

- カウンセリング
- レポート返ってくるのが遅くて間に合わないオンラインで提出できるレポートがあれば嬉しい
- 遠方進学に関して。遠方のため知識がない部分を補える資料を豊富にして欲しい。
- 過去問の充実
- 個人的な意見としては、面接指導、進学相談辺りの支援を強化して欲しいと感じています。
- 就職などの相談
- 就職先
- 奨学金制度
- 小論文対策、面接対策
- 上記だけではまだ分からない事が多いため現場の見学等を取り入れた方が良いと感じる
- 進学相談、面接指導
- 進学相談を対面以外でしたい(メールなど)
- 進路相談ができるイベントの開催、またそれの告知
- 生徒の自己啓発向上になる発言や灯火の案内
- 相談をどのタイミングでどの人にすればいいのか分からない
- 卒業生の就職先
- 他の人の相談や解決方法を開示してほしい。
- 大学に向けての入試対策や対策の教科書の配布などしてもっと入試に心の余裕ができるようにしてほしいです
- 分校でもイベントしてほしい
- 面接指導
- 面接指導、進学指導
- 特になし

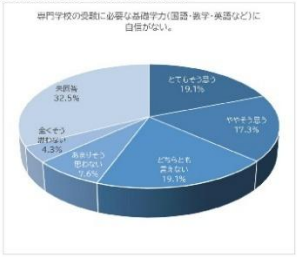
②-1　学習、学力面での課題、問題、不安
専門学校での授業についていけるか、学習内容の難易度に不安がある

とてもそう思う	55 名
ややそう思う	52 名
どちらとも言えない	65 名
あまりそう思わない	34 名
全くそう思わない	18 名
未回答	105 名



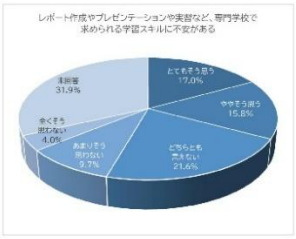
②-2　専門学校の受験に必要な基礎学力(国語・数学・英語)に自信がない。

とてもそう思う	63 名
ややそう思う	57 名
どちらとも言えない	63 名
あまりそう思わない	25 名
全くそう思わない	14 名
未回答	107 名



②-3　レポート作成やプレゼンテーションや実習など、専門学校で求められる学習スキルに不安がある

とてもそう思う	56 名
ややそう思う	52 名
どちらとも言えない	71 名
あまりそう思わない	32 名
全くそう思わない	13 名
未回答	105 名



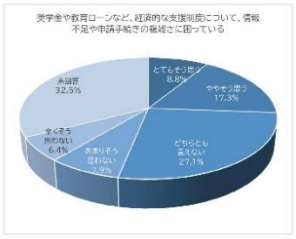
③-1　経済的(学費、生活費、交通費等)な課題、問題
専門学校の入学金や授業料捻出に、大きな不安を感じている

とてもそう思う	41 名
ややそう思う	45 名
どちらとも言えない	83 名
あまりそう思わない	34 名
全くそう思わない	19 名
未回答	107 名



③-2　奨学金や教育ローンなど、経済的な支援制度について、情報不足や申請手続きの複雑さに困っている

とてもそう思う	29 名
ややそう思う	57 名
どちらとも言えない	89 名
あまりそう思わない	26 名
全くそう思わない	21 名
未回答	107 名



③-3　進学後の生活費や交通費(特に遠方への通学の場合)の負担に不安がある。

とてもそう思う	35 名
ややそう思う	56 名
どちらとも言えない	93 名
あまりそう思わない	23 名
全くそう思わない	17 名
未回答	105 名



進学を実現するために、経済的に特に不足している費用はありますか？(自由記載)

- おそらく学費
- 学費、生活費等
- 生活費
- 通学費用
- 日常の生活費不足
- 入学金
- 分からない
- 特になし
- 進学後の生活費、学費、現在の生活費、現在必要な資料や塾等費用、現在から進学後の交通費

④-1　心理的(家族の理解、孤立メンタル等)な課題問題

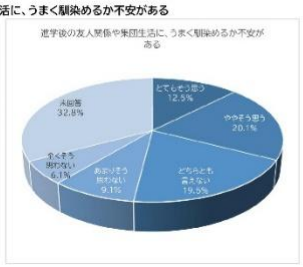
専門学校への進学について、家族や保護者の理解や賛成が得られているか不安がある

とてもそう思う	18 名
ややそう思う	27 名
どちらとも言えない	69 名
あまりそう思わない	57 名
全くそう思わない	50 名
未回答	108 名



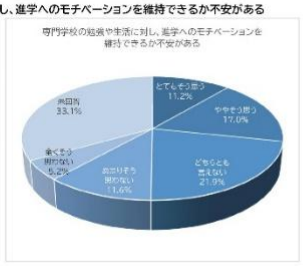
④-2　進学後の友人関係や集団生活に、うまく馴染めるか不安がある

とてもそう思う	41 名
ややそう思う	66 名
どちらとも言えない	64 名
あまりそう思わない	30 名
全くそう思わない	20 名
未回答	108 名



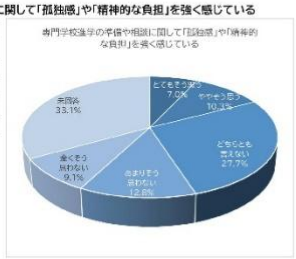
④-3　専門学校の勉強や生活に対し、進学へのモチベーションを維持できるか不安がある

とてもそう思う	37 名
ややそう思う	56 名
どちらとも言えない	72 名
あまりそう思わない	38 名
全くそう思わない	17 名
未回答	109 名



④-4　専門学校進学の準備や相談に関して「孤独感」や「精神的な負担」を強く感じている

とてもそう思う	23 名
ややそう思う	34 名
どちらとも言えない	91 名
あまりそう思わない	42 名
全くそう思わない	30 名
未回答	109 名



【Q22】上記(Q21)以外で、あなたが専門学校への進学に向けて、最も大きな「障壁」になっていると感じることを具体的にお書きください(自由記述)

- 学力、目指す目標がイマイチ定まってない、モチベーション
- クラスの雰囲気や先生方の雰囲気が自分に合うかどうか。
- 課題の提出期限を守れるか心配
- 学習面
- 学費
- 学力不足
- 現在の体調、進学後に体調が変化し生活が困難になる可能性があること。遠方へ進学すると、支援先が見つからない可能性があること。
- 支援無しに生活費を賄うため、学業とアルバイトの両立を続けなければならないこと
- 自身のやる気がわかず先行き不透明で意欲がないこと
- 上記と同じような事だか金銭面や学習能力の面が障壁になるとおもいます、他の事に関しては特におもいあたりません
- 情報収集
- 人とのコミュニケーション
- 人見知り
- 単位
- 通学に使用するお金
- 特にない
- 勉強
- 勉強について行けるか

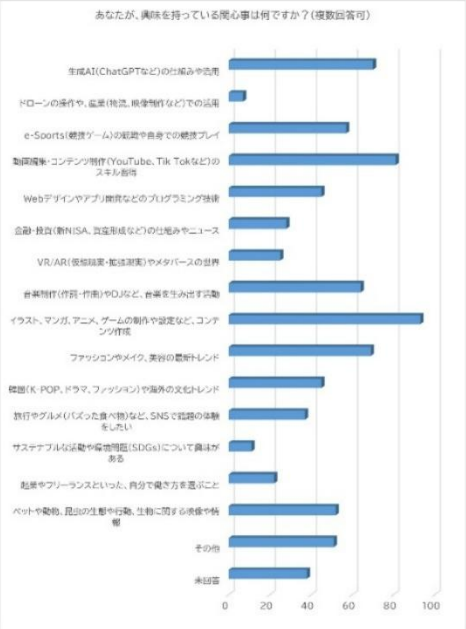
【6】通信制高校の学生たちが興味を持っているものや、どのような将来を抱いているかを把握

【Q23】あなたが、興味を持っている関心事は何ですか？(複数回答可)

生成 AI(ChatGPT など)の仕組みや活用	70 名
ドローンの操作や、産業(物流、映像制作など)での活用	7 名
e-Sports(競技ゲーム)の観戦や自身での競技プレイ	57 名
動画編集・コンテンツ制作(YouTube、Tik Tok など)のスキル習得	81 名
Web デザインやアプリ開発などのプログラミング技術	45 名
金融・投資(新 NISA、資産形成など)の仕組みやニュース	28 名
VR/AR(仮想現実・拡張現実)やメタバースの世界	25 名
音楽制作(作詞・作曲)や DJ など、音楽を生み出す活動	64 名
イラスト、マンガ、アニメ、ゲームの制作や設定など、コンテンツ作成	93 名
ファッションやメイク、美容の最新トレンド	69 名
韓国(K-POP、ドラマ、ファッション)や海外の文化トレンド	45 名
旅行やグルメ(バズった食べ物)など、SNS で話題の体験をしたい	37 名
サステナブルな活動や環境問題(SDGs)について興味がある	11 名
起業やフリーランスといった、自分で働き方を選ぶこと	22 名
ペットや動物、昆虫の生態や行動、生物に関する映像や情報	52 名
その他	51 名
未回答	38 名

※その他内容

- 文学、哲学
- スクールカウンセラー
- 心理学
- ルアー作り
- 自動車
- 植物、フラワーデザイナー
- 精神的な健康について
- 公務員
- 無し
- 心理学
- 美容師
- 心理学



26

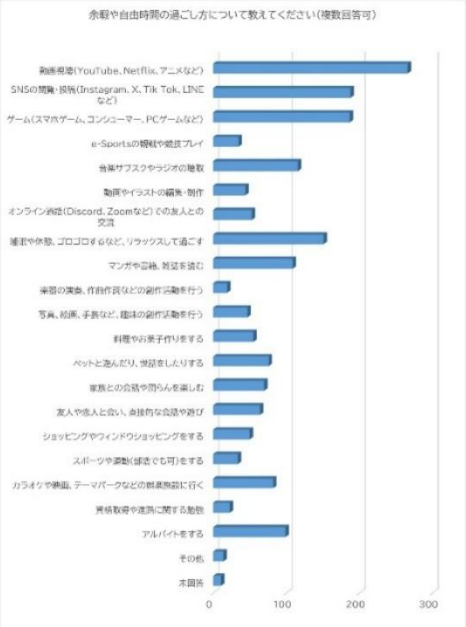
【Q24】余暇や自由時間の過ごし方について教えてください(複数回答可)

動画視聴(YouTube、Netflix、アニメなど)	266 名
SNS の閲覧・投稿(Instagram、X、Tik Tok、LINE など)	188 名
ゲーム(スマホゲーム、コンシューマー、PC ゲームなど)	187 名
e-Sports の観戦や競技プレイ	35 名
音楽サブスクやラジオの聴取	116 名
動画やイラストの編集・制作	44 名
オンライン通話(Discord、Zoom など)での友人との交流	53 名
睡眠や休憩、ゴロゴロするなど、リラックスして過ごす	151 名
マンガや書籍、雑誌を読む	109 名
楽器の演奏、作曲作詞などの創作活動を行う	19 名
写真、絵画、手芸など、趣味の創作活動を行う	47 名
料理やお菓子作りをする	55 名
ペットと遊んだり、世話をしたりする	76 名
家族との会話や団らんを楽しむ	70 名
友人や恋人と会い、直接的な会話や遊び	64 名
ショッピングやウィンドウショッピングをする	50 名
スポーツや運動(部活でも可)をする	34 名
カラオケや映画、テーマパークなどの娯楽施設に行く	82 名
資格取得や進路に関する勉強	23 名
アルバイトをする	99 名
その他	14 名
未回答	11 名

※その他内容

- 配信のアーカイブやそれらの編集、投稿

27



28

【Q25】あなたが将来就きたい業界、やってみたい職業はなんですか？(複数回答可)

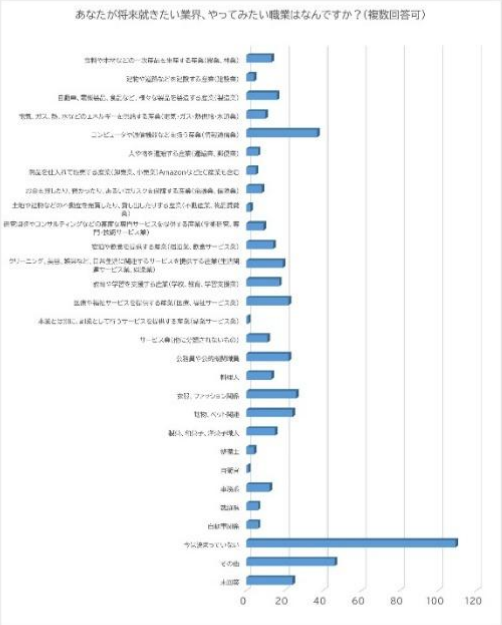
食料や木材などの一次産品を生産する産業(農業、林業)	13 名
建物や道路などを建設する産業(建設業)	4 名
自動車、電機製品、食品など、様々な製品を製造する産業(製造業)	16 名
電気、ガス、熱、水などのエネルギーを供給する産業(電気・ガス・熱供給・水道業)	10 名
コンピュータや通信機器などを扱う産業(情報通信業)	37 名
人や物を運搬する産業(運輸業、郵便業)	6 名
商品を仕入れて販売する産業(卸売業、小売業)Amazon など EC 産業も含む	5 名
お金を貸したり、預かったり、あるいはリスクを保障する産業(金融業、保険業)	8 名
土地や建物などの不動産を売買したり、貸し出したりする産業(不動産業、物品賃貸業)	2 名
研究開発やコンサルティングなどの高度な専門サービスを提供する産業(学術研究、専門・技術サービス業)	9 名
宿泊や飲食を提供する産業(宿泊業、飲食サービス業)	14 名
クリーニング、美容、娯楽など、日常生活に関連するサービスを提供する産業(生活関連サービス業、娯楽業)	19 名
教育や学習を支援する産業(学校、教育、学習支援業)	17 名
医療や福祉サービスを提供する産業(医療、福祉サービス業)	22 名
本業とは別に、副業として行うサービスを提供する産業(副業サービス業)	1 名
サービス業(他に分類されないもの)	11 名
公務員や公的機関職員	22 名
料理人	13 名
衣服、ファッション関係	26 名
動物、ペット関連	24 名
製菓、和菓子、洋菓子職人	15 名
整備士	4 名
自衛官	1 名
事務系	12 名
就職系	6 名
自動車関係	6 名
今は決まっていない	109 名
その他	46 名
未回答	24 名

※その他内容

- イベントの企画・運営
- 美容師
- モデラー
- 精神科みたいなの
- 水商売
- 音楽関係

29

- 魔王を倒す勇者の手伝い
- 母の起業した納棺師業
- 心理カウンセラー
- フラワーデザイナー
- イラストレーター
- 鉄道系
- 音楽関係
- 声優・俳優
- スポーツ系
- メイク関連
- 釣り関係
- デザイン系
- アニメーター
- 動画編集者
- アニメーター



【Q26】上記(Q25)の希望の職業に就くために必要な能力(スキル)や必要となる資格は何だと思いますか？(自由記述)

- 日商簿記
- 簿記
- メイクの技術さ
- 調理師資格
- 公務員試験を受ける
- 高卒
- トーク力
- ボランティア精神
- モデリング技術
- 勉強を続けること
- 分からない
- パソコン
- 栄養士
- 調理士　栄養士
- 分からない
- ひと人と関わる能力
- 保育士資格
- 国家資格
- 特にないです。
- 知識をつけて、責任感を持つ
- ごみゆに
- 期限を守る
- 免許
- 色彩検定
- 問題点を見つけ、解決する力
- 気遣いと思いやり、先を読む力
- 基礎デッサン、デッサン力、人体解剖学
- 特になし
- 協動性
- 特になし
- 臨床心理士、公認心理師
- ない
- 相手とのコミュニケーション能力や発想力
- 国家資格
- 運転免許を取るために勉強をする
- 調理師免許
- わからない
- 第二種電気工事士
- コミュニティケーション能力
- 初任者研修など
- 勉強すること
- グローバル化による多言語の取得
- 人とのコミュニケーション
- コミュニケーション
- 発想力・判断力
- 専門学校卒業、圧倒的に滑舌
- 英語
- 建築士の資格、整備士の資格
- 人の意見や要望を聞きすぐに対応できる力、食品衛生についての資格
- バイト経験、コミュニケーション能力、その作業を行う上で必要な資格
- 必要な資格は職種によって変わるが、一般教養やマナー等は身につけておくべきだと思う。
- コミュニケーション能力、発想力、情報収集、色彩検定、Illustrator クリエイター能力検定、Photoshop クリエイター能力検定、グラフィックデザイン検定

【7】社会へ出る上で必要と思う力「社会人基礎力(12 の能力要素)」と自己評価

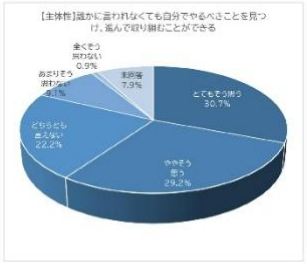
【Q27】あなたが地域社会や職場で仕事をしていくために必要だと思う能力(スキル)は何ですか？

A･･･前に踏み出す力(アクション)

物事に進んで取り組み、失敗を恐れずに挑戦するために必要だと感じる力についての設問

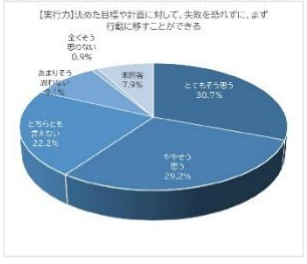
A-1　【主体性】誰かに言われなくても自分でやるべきことを見つけ、進んで取り組むことができる

とてもそう思う	101 名
ややそう思う	96 名
どちらとも言えない	73 名
あまりそう思わない	30 名
全くそう思わない	3 名
未回答	26 名



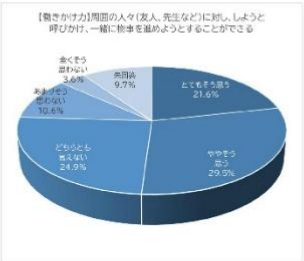
A-2　【実行力】決めた目標や計画に対して、失敗を恐れずに、まず行動に移すことができる

とてもそう思う	100 名
ややそう思う	83 名
どちらとも言えない	71 名
あまりそう思わない	39 名
全くそう思わない	5 名
未回答	31 名



A-3　【働きかけ力】周囲の人々(友人、先生など)に対し、しようと呼びかけ、一緒に物事を進めようとすることができる

とてもそう思う	71 名
ややそう思う	97 名
どちらとも言えない	82 名
あまりそう思わない	35 名
全くそう思わない	12 名
未回答	32 名

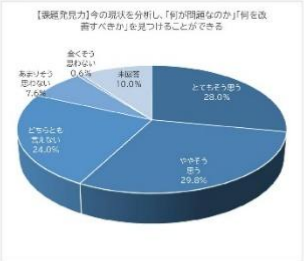


B･･･考え抜く力(シンキング)

現状を分析し、疑問を持って深く考え、問題解決のために必要な力についての設問

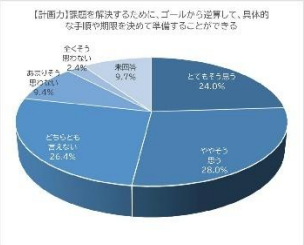
B-1　【課題発見力】今の現状を分析し、「何が問題なのか」「何を改善すべきか」を見つけることができる

とてもそう思う	92 名
ややそう思う	98 名
どちらとも言えない	79 名
あまりそう思わない	25 名
全くそう思わない	2 名
未回答	33 名



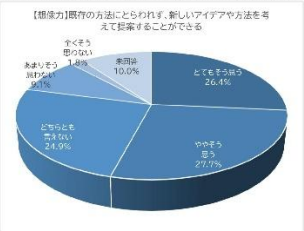
B-2　【計画力】課題を解決するために、ゴールから逆算して、具体的な手順や期限を決めて準備することができる

とてもそう思う	79 名
ややそう思う	92 名
どちらとも言えない	87 名
あまりそう思わない	31 名
全くそう思わない	8 名
未回答	32 名



B-3　【創造力】既存の方法にとらわれず、新しいアイデアや方法を考えて提案することができる

とてもそう思う	87 名
ややそう思う	91 名
どちらとも言えない	82 名
あまりそう思わない	30 名
全くそう思わない	6 名
未回答	33 名

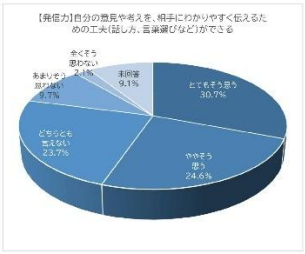


C･･･チームで働く力（チームワーク）

多様な人々と強調し、目標達成に向けて協力するために必要だと感じる力についての設問

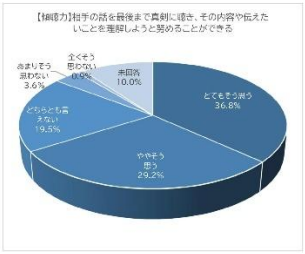
C-1【発信力】自分の意見や考えを、相手にわかりやすく伝えるための工夫（話し方、言葉選びなど）ができる

とてもそう思う	101 名
ややそう思う	81 名
どちらとも言えない	78 名
あまりそう思わない	32 名
全くそう思わない	7 名
未回答	30 名



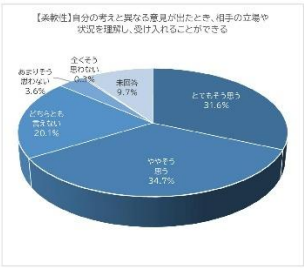
C-2　【傾聴力】相手の話を最後まで真剣に聴き、その内容や伝えたいことを理解しようと努めることができる

とてもそう思う	121 名
ややそう思う	96 名
どちらとも言えない	64 名
あまりそう思わない	12 名
全くそう思わない	3 名
未回答	33 名



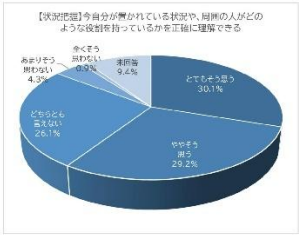
C-3　【柔軟性】自分の考えと異なる意見が出たとき、相手の立場や状況を理解し、受け入れることができる

とてもそう思う	104 名
ややそう思う	114 名
どちらとも言えない	66 名
あまりそう思わない	12 名
全くそう思わない	1 名
未回答	32 名



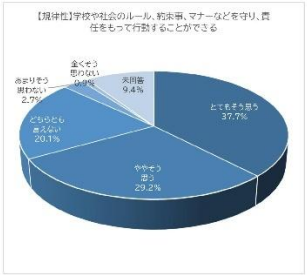
C-4　【状況把握】今自分が置かれている状況や、周囲の人がどのような役割を持っているかを正確に理解できる

とてもそう思う	99 名
ややそう思う	96 名
どちらとも言えない	86 名
あまりそう思わない	14 名
全くそう思わない	3 名
未回答	31 名



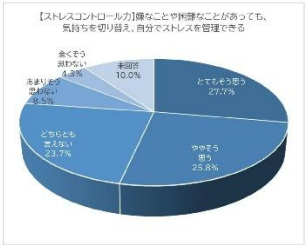
C-5　【規律性】学校や社会のルール、約束事、マナーなどを守り、責任をもって行動することができる

とてもそう思う	124 名
ややそう思う	96 名
どちらとも言えない	66 名
あまりそう思わない	9 名
全くそう思わない	3 名
未回答	31 名



C-6　【ストレスコントロール力】嫌なことや困難なことがあっても、気持ちを切り替え、自分でストレスを管理できる

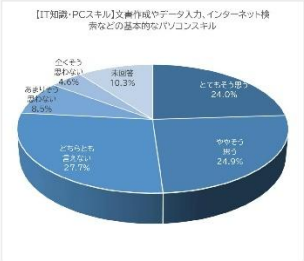
とてもそう思う	91 名
ややそう思う	85 名
どちらとも言えない	78 名
あまりそう思わない	28 名
全くそう思わない	14 名
未回答	33 名



D･･･汎用的な力

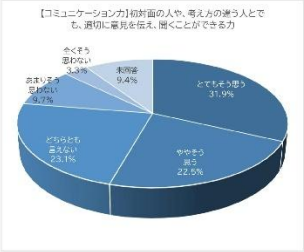
D-1　【IT 知識・PC スキル】文書作成やデータ入力、インタネット検索などの基本的なパソコンスキル

とてもそう思う	79 名
ややそう思う	82 名
どちらとも言えない	91 名
あまりそう思わない	28 名
全くそう思わない	15 名
未回答	34 名



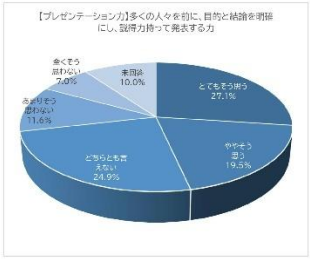
D-2　【コミュニケーション力】初対面の人や、考え方の違う人とでも、適切に意見を伝え、聞くことができる

とてもそう思う	105 名
ややそう思う	74 名
どちらとも言えない	76 名
あまりそう思わない	32 名
全くそう思わない	11 名
未回答	31 名



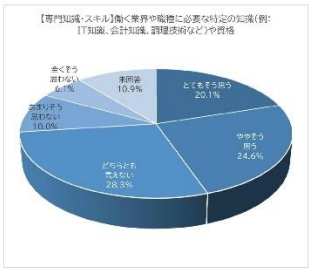
D-3　【プレゼンテーション力】多くの人々を前に、目的と結論を明確にし、説得力持って発表する力

とてもそう思う	89 名
ややそう思う	64 名
どちらとも言えない	82 名
あまりそう思わない	38 名
全くそう思わない	23 名
未回答	33 名



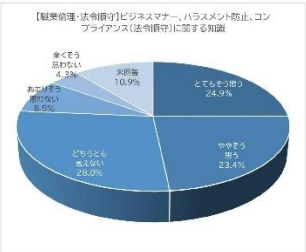
D-4　【専門知識・スキル】働く業界や職種に必要な特定の知識(例:IT 知識、会計知識、調理技術など)や資格

とてもそう思う	66 名
ややそう思う	81 名
どちらとも言えない	93 名
あまりそう思わない	33 名
全くそう思わない	20 名
未回答	36 名



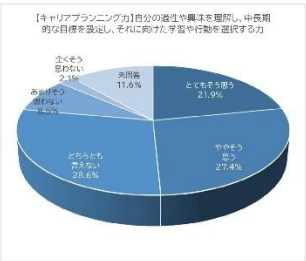
D-5　【職業倫理・法令順守】ビジネスマナー、ハラスメント防止、コンプライアンス(法令順守)に関する知識

とてもそう思う	82 名
ややそう思う	77 名
どちらとも言えない	92 名
あまりそう思わない	28 名
全くそう思わない	14 名
未回答	36 名



D-6　【キャリアプランニング力】自分の適性や興味を理解し、中長期的な目標を設定し、それに向けた学習や行動を選択する力

とてもそう思う	72 名
ややそう思う	90 名
どちらとも言えない	94 名
あまりそう思わない	28 名
全くそう思わない	7 名
未回答	38 名

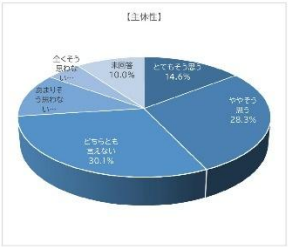


【Q28】あなたは、上記(Q27)の能力(スキル)の中で現在自分自身がどの程度できているか評価してみてください

A･･･前に踏み出す力(アクション)

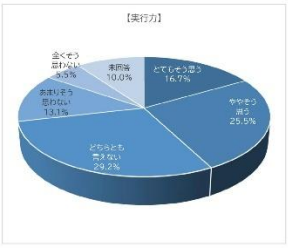
A-1　【主体性】

とてもそう思う	48 名
ややそう思う	93 名
どちらとも言えない	99 名
あまりそう思わない	39 名
全くそう思わない	17 名
未回答	33 名



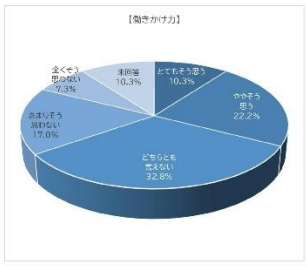
A-2　【実行力】

とてもそう思う	55 名
ややそう思う	84 名
どちらとも言えない	96 名
あまりそう思わない	43 名
全くそう思わない	18 名
未回答	33 名



A-3　【働きかけ力】

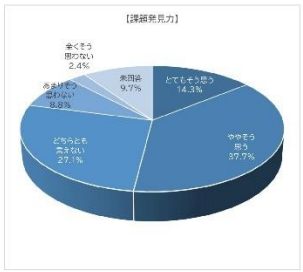
とてもそう思う	34 名
ややそう思う	73 名
どちらとも言えない	108 名
あまりそう思わない	56 名
全くそう思わない	24 名
未回答	34 名



B・・・考え抜く力(シンキング)

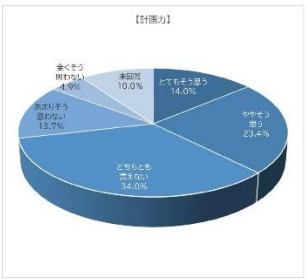
B-1　【課題発見力】

とてもそう思う	47 名
ややそう思う	124 名
どちらとも言えない	89 名
あまりそう思わない	29 名
全くそう思わない	8 名
未回答	32 名



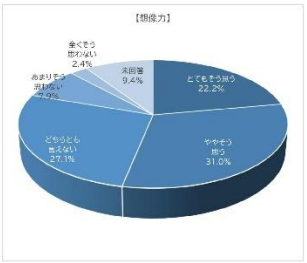
B-2　【計画力】

とてもそう思う	46 名
ややそう思う	77 名
どちらとも言えない	112 名
あまりそう思わない	45 名
全くそう思わない	16 名
未回答	33 名



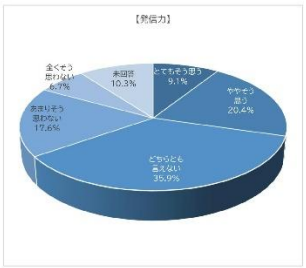
B-3　【創造力】

とてもそう思う	73 名
ややそう思う	102 名
どちらとも言えない	89 名
あまりそう思わない	26 名
全くそう思わない	8 名
未回答	31 名



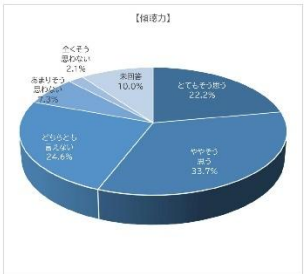
C-1　【発信力】

とてもそう思う	30 名
ややそう思う	67 名
どちらとも言えない	118 名
あまりそう思わない	58 名
全くそう思わない	22 名
未回答	34 名



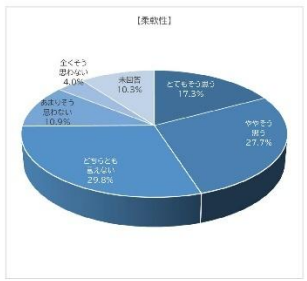
C-2　【傾聴力】

とてもそう思う	73 名
ややそう思う	111 名
どちらとも言えない	81 名
あまりそう思わない	24 名
全くそう思わない	7 名
未回答	33 名



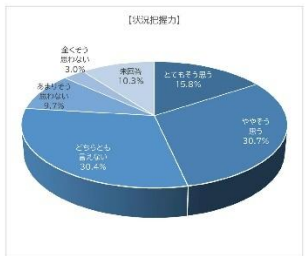
C-3　【柔軟性】

とてもそう思う	57 名
ややそう思う	91 名
どちらとも言えない	98 名
あまりそう思わない	36 名
全くそう思わない	13 名
未回答	34 名



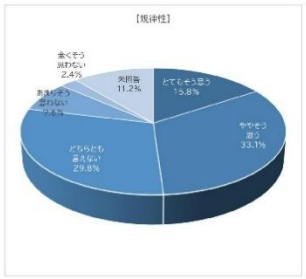
C-4　【状況把握力】

とてもそう思う	52 名
ややそう思う	101 名
どちらとも言えない	100 名
あまりそう思わない	32 名
全くそう思わない	10 名
未回答	34 名



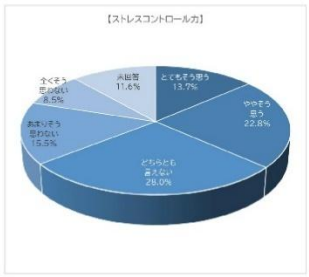
C-5　【規律性】

とてもそう思う	52 名
ややそう思う	109 名
どちらとも言えない	98 名
あまりそう思わない	25 名
全くそう思わない	8 名
未回答	37 名



C-6　【ストレスコントロール力】

とてもそう思う	45 名
ややそう思う	75 名
どちらとも言えない	92 名
あまりそう思わない	51 名
全くそう思わない	28 名
未回答	38 名



D･･･汎用的な力

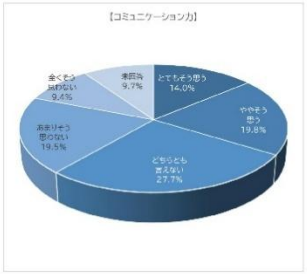
D-1　【IT 知識・PC スキル】

とてもそう思う	36 名
ややそう思う	56 名
どちらとも言えない	103 名
あまりそう思わない	70 名
全くそう思わない	30 名
未回答	34 名



D-2　【コミュニケーション力】

とてもそう思う	46 名
ややそう思う	65 名
どちらとも言えない	91 名
あまりそう思わない	64 名
全くそう思わない	31 名
未回答	32 名



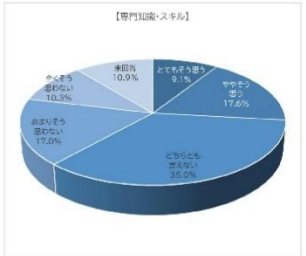
D-3　【プレゼンテーション力】

とてもそう思う	29 名
ややそう思う	45 名
どちらとも言えない	104 名
あまりそう思わない	74 名
全くそう思わない	41 名
未回答	36 名



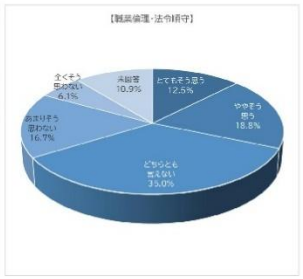
D-4　【専門知識・スキル】

とてもそう思う	30 名
ややそう思う	58 名
どちらとも言えない	115 名
あまりそう思わない	56 名
全くそう思わない	34 名
未回答	36 名



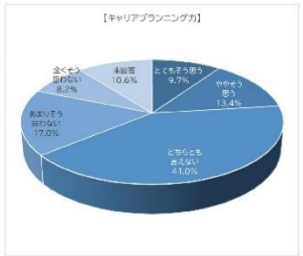
D-5　【職業倫理・法令順守】

とてもそう思う	41 名
ややそう思う	62 名
どちらとも言えない	115 名
あまりそう思わない	55 名
全くそう思わない	20 名
未回答	36 名



D-6　【キャリアプランニング力】

とてもそう思う	32 名
ややそう思う	44 名
どちらとも言えない	135 名
あまりそう思わない	56 名
全くそう思わない	27 名
未回答	35 名



【Q29】あなたが自分の能力(スキル)を伸ばすために取り組んでいることを教えて下さい（自由記述）

- 経験を積む
- 考える時間を作る
- あいさつをしっかりする
- ない
- 人と関わること
- バイト
- 特になし
- タイピング
- 無し
- 特になし
- 間違いを復習すること
- ぼさ
- 筋トレをしたり、日光を浴びる。
- 画塾に通い、自習もしている
- To do リストを作る
- 特になし
- ない
- 母の仕事を手伝う
- 親に見せて感想をもらう
- IT 系の資格取得
- とくにない
- 継続する
- アルバイトをする
- 計画を立てる
- コミュニケーションに気を使っている
- 自分が将来必要だと思う資格の勉強
- 人とのコミュニケーションを取る
- アルバイト、資格勉強
- 考えてから行動する
- 様々な事に挑戦する事
- 特になし
- 特にない
- いろんな人との交流をする
- 絵や 3DCG の勉強をしています
- アルバイトなどで人と関わる機会を多く持つ。
- とにかく得られる情報は可能な限り取り込む
- まずは自分の社交不安障害を落ち着かせる
- 悩んだ時に自分のことを客観的に見て考える
- 周りの声を聴き、状況を見極められるよう全体を見ている
- いろんな人と関わる。新しいことに挑戦する。努力を積み重ねる。
- たまにポスターや名刺等のデザインをしている。
- 日常生活に取り入れる、このスキルを使わざるを得ない立場に上がる
- 気になったことは放置せず、調べる。興味のあることは放置せずしっかり向き合い更に興味を引き出す

【Q30】学校や地域にどんな学びや支援サポートの仕組みがあれば、あなたの能力(スキル)を伸ばすことができますか(自由記述)

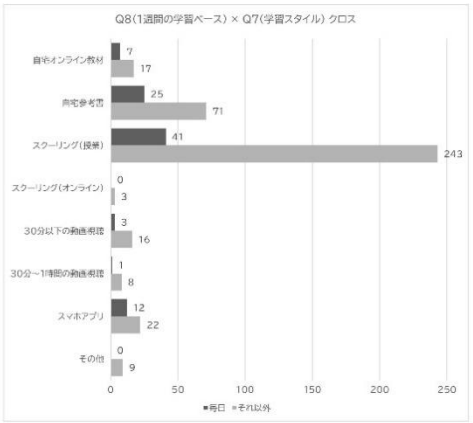
- いろんな経験を積める催しが頻繁に開催されること
- はじめの一歩を踏み出す手助け
- 勉強で分からないことを自由に聞けるサポート
- 分からない
- ボランティア参加
- いろんな外国語の勉強
- 分からない
- 今で満足
- 分からない
- 音楽の授業
- 学習会みたいな活動
- 体験授業や行事を増やす。
- 個人個人を評価し、その人に会ったカリキュラムを提供してくれること
- 特になし
- 職場体験
- ない
- わかりません
- 地域の様々な人との交流
- 自己理解を深める活動や時間
- わからない
- コミュニケーション能力を育てるイベント、デザイン体験イベント
- 家の近くに専門学校を建てて欲しい。
- 簡単なそれぞれの分野の能力テストがあれば、伸ばしたり活かすことができるのがわかっていいなと思います。
- 主体的にプレゼンテーションを行える授業
- 分かりません。
- 学校区域の外での課外活動(体験活動など)
- 通信制オリジナルのイベントがもういくつかあれば生徒会としてバリバリ動く機会が増えるので可能であれば少し増やしていただけますと幸いです
- はい
- 専門学校や専門的な知識を持った方が身近にいたら伸ばせると思います

3－4. 通信制高校生アンケート調査結果(クロス集計)

【Q8】 1週間の学習ペースは(1 つだけ)

【Q7】 主にどのようなスタイル(形)で学習していますか？(複数回答可)

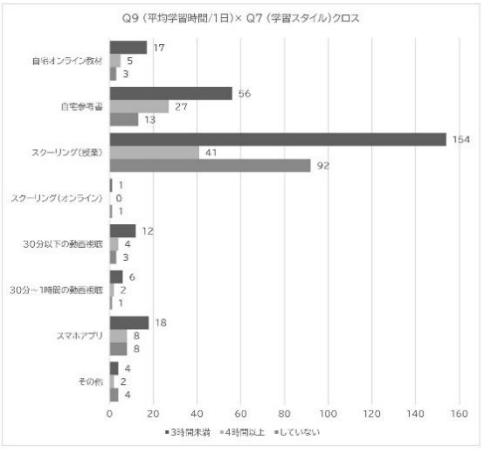
	自宅オンライン教材	自宅参考書	スクーリング(授業)	スクーリング(オンライン)	30分以下の動画視聴	30分～1時間の動画視聴	スマホアプリ	その他
毎日	7	25	41	0	3	1	12	0
それ以外	17	71	243	3	16	8	22	9
未回答	1	0	4	0	0	0	0	1



【Q9】 1日に平均してどのくらい学習していますか？(1 つだけ)

【Q7】 主にどのようなスタイル(形)で学習していますか？(複数回答可)

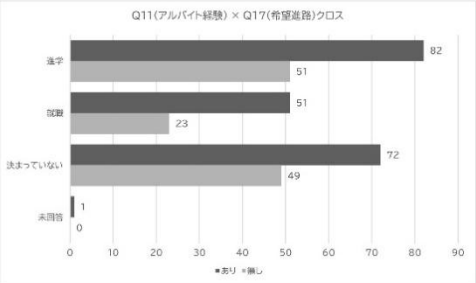
	自宅オンライン教材	自宅参考書	スクーリング(授業)	スクーリング(オンライン)	30分以下の動画視聴	30分～1時間の動画視聴	スマホアプリ	その他
3 時間未満	17	56	154	1	12	6	18	4
4 時間以上	5	27	41	0	4	2	8	2
していない	3	13	92	1	3	1	8	4
未回答	0	0	1	1	0	0	0	0



【Q11】アルバイトの経験はありますか？(1 つだけ)

【Q17】希望する進路について教えてください(1 つだけ)

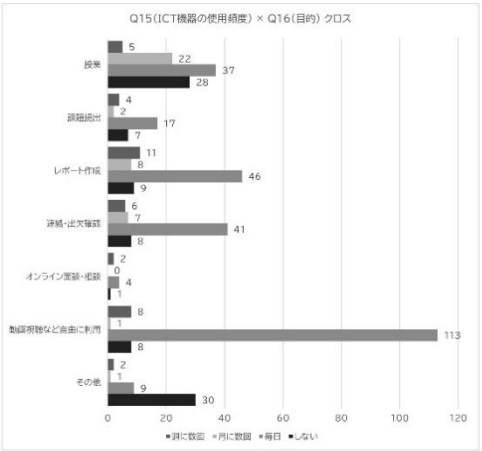
	進学	就職	決まっていない	未回答
あり	82	51	72	1
無し	51	23	49	0
未回答	0	0	0	



【Q15】学校で使用できる ICT 機器(パソコン・タブレットなど)は、どのくらいの頻度で利用していますか？(1 つだけ)

【Q16】ICT 機器を使用する目的は何ですか？(複数回答可)

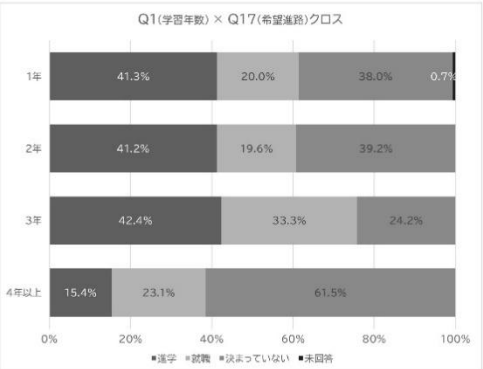
	授業	課題提出	レポート作成	連絡・出欠確認	オンライン面談・相談	動画視聴など自由に利用	その他
週に数回	5	4	11	6	2	8	2
月に数回	22	2	8	7	0	1	1
毎日	37	17	46	41	4	113	9
しない	28	7	9	8	1	8	30
未回答	0	0	0	0	0	0	27



【Q1】 通信制高校で何年間学んでいますか？(1 つだけ)

【Q17】希望する進路について教えてください。(1 つだけ)

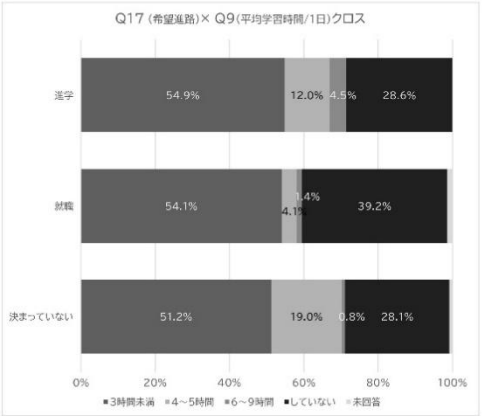
	進学	就職	決まっていない	未回答
1 年	62	30	57	1
2 年	40	19	38	0
3 年	28	22	16	0
4 年以上	2	3	8	0
未回答	1	0	2	0



【Q17】希望する進路について教えてください。(1 つだけ)

【Q9】 1日に平均してどのくらい学習していますか？(1 つだけ)

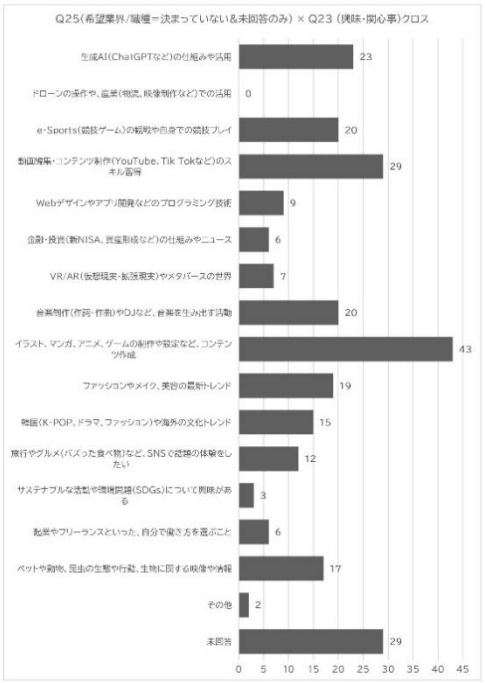
	3 時間未満	4～5 時間	6～9 時間	していない	未回答
進学	73	16	6	38	0
就職	40	3	1	29	1
決まっていない	62	23	1	34	1
未回答	0	1	0	0	0



【Q25】あなたが将来就きたい業界、やってみたい職業はなんですか？(複数回答可)

【Q23】あなたが、興味を持っている関心事は何ですか？(AI、e-Sports、動画編集名など)
(複数回答可)

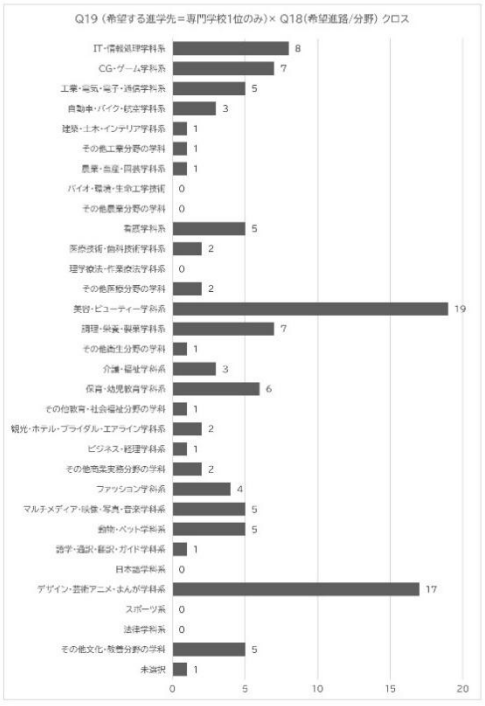
	決まっていない＆未回答	それ以外
生成 AI(ChatGPT など)の仕組みや活用	23	47
ドローンの操作や、産業(物流、映像制作など)での活用	0	7
e-Sports(競技ゲーム)の観戦や自身での競技プレイ	20	37
動画編集・コンテンツ制作(YouTube、Tik Tok など)のスキル習得	29	52
Web デザインやアプリ開発などのプログラミング技術	9	36
金融・投資(新 NISA、資産形成など)の仕組みやニュース	6	22
VR/AR(仮想現実・拡張現実)やメタバースの世界	7	18
音楽制作(作詞・作曲)や DJ など、音楽を生み出す活動	20	44
イラスト、マンガ、アニメ、ゲームの制作や設定など、コンテンツ作成	43	50
ファッションやメイク、美容の最新トレンド	19	50
韓国(K-POP、ドラマ、ファッション)や海外の文化トレンド	15	30
旅行やグルメ(バズった食べ物)など、SNS で話題の体験をしたい	12	25
サステナブルな活動や環境問題(SDGs)について興味がある	3	8
起業やフリーランスといった、自分で働き方を選ぶこと	6	16
ペットや動物、昆虫の生態や行動、生物に関する映像や情報	17	35
その他	2	11
未回答	29	9



【Q19】進学を選択した場合に進学先の希望順位(進学先ごと１つだけ)

【Q18】将来目指す進路(職業)の分野等を教えてください。(複数回答可)

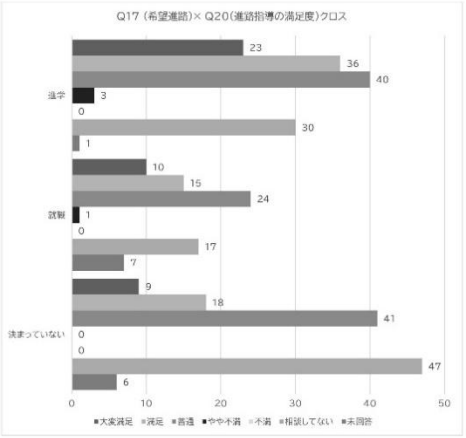
	専門学校 1位	それ以外	未回答
IT・情報処理学科系	8	16	8
CG・ゲーム学科系	7	14	8
工業・電気・電子・通信学科系	5	6	9
自動車・バイク・航空学科系	3	6	4
建築・土木・インテリア学科系	1	1	3
その他工業分野の学科	1	2	3
農業・畜産・園芸学科系	1	3	4
バイオ・環境・生命工学技術	0	0	2
その他農業分野の学科	0	1	1
看護学科系	5	4	2
医療技術・歯科技術学科系	2	6	3
理学療法・作業療法学科系	0	4	2
その他医療分野の学科	2	2	1
美容・ビューティー学科系	19	7	10
調理・栄養・製菓学科系	7	8	5
その他衛生分野の学科	1	1	1
介護・福祉学科系	3	5	6
保育・幼児教育学科系	6	7	4
その他教育・社会福祉分野の学科	1	3	1
観光・ホテル・ブライダル・エアライン学科系	2	2	5
ビジネス・経理学科系	1	11	4
その他商業実務分野の学科	2	6	6
ファッション学科系	4	1	8
マルチメディア・映像・写真・音楽学科系	5	5	2
動物・ペット学科系	5	5	3
語学・通訳・翻訳・ガイド学科系	1	6	4
日本語学科系	0	3	1
デザイン・装飾アニメ・まんが学科系	17	15	7
スポーツ系	0	1	2
法律学科系	0	3	2
その他文化・教養分野の学科	5	23	16
未選択	1	7	48



【Q17】希望する進路について教えてください。(1つだけ)

【Q20】学校の進路指導に満足していますか？(1つだけ)

	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	相談してない	未回答
進学	23	36	40	3	0	30	1
就職	10	15	24	1	0	17	7
決まっていない	9	18	41	0	0	47	6
未回答	0	0	0	0	0	0	1



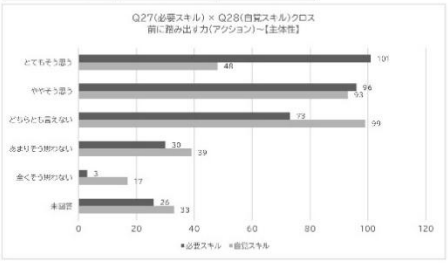
【Q27】あなたが地域社会や職場で仕事をしていくために必要だと思う能力(スキル)は何ですか？(各々1つだけ)

【Q28】あなたは、Q27 の能力(スキル)の中で現在自分自身がどの程度できているか評価してみてください。(各々1つだけ)

【前に踏み出す力(アクション)】･･･物事に進んで取り組み、失敗を恐れずに挑戦するために必要だと感じる力

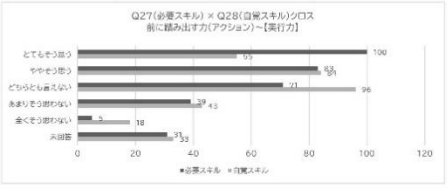
●主体性･･･誰かに言われなくても自分でやるべきことを見つけ、進んで取り組むことができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	101	48
ややそう思う	96	93
どちらとも言えない	73	99
あまりそう思わない	30	39
全くそう思わない	3	17
未回答	26	33



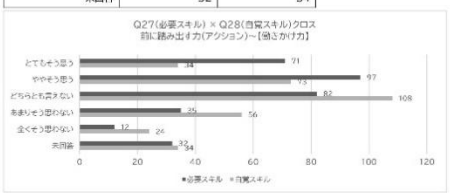
●実行力･･･決めた目標や計画に対して、失敗を恐れずに、まず行動に移すことができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	100	55
ややそう思う	83	84
どちらとも言えない	71	96
あまりそう思わない	39	43
全くそう思わない	5	18
未回答	31	33



●働きかけ力･･･周囲の人々(友人、先生など)に対し、しようと呼びかけ、一緒に物事を進めようとすることができる。

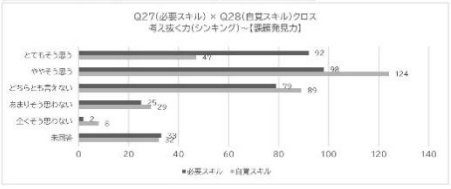
	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	71	34
ややそう思う	97	73
どちらとも言えない	82	108
あまりそう思わない	35	56
全くそう思わない	12	24
未回答	32	34



【考え抜く力(シンキング)】･･･現状を分析し、疑問を持って深く考え、問題解決のために必要な力

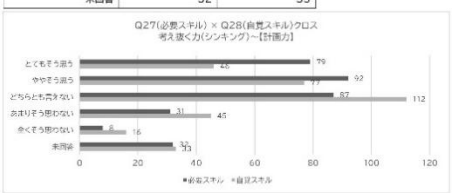
●課題発見力･今の現状を分析し、「何が問題なのか」「何を改善すべきか」を見つけることができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	92	47
ややそう思う	98	124
どちらとも言えない	79	89
あまりそう思わない	25	29
全くそう思わない	2	8
未回答	33	32



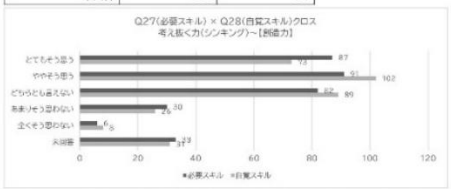
●計画力･･･課題を解決するために、ゴールから逆算して、具体的な手順や期限を決めて準備することができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	79	46
ややそう思う	92	77
どちらとも言えない	87	112
あまりそう思わない	31	45
全くそう思わない	8	16
未回答	32	33



●創造力・・・既存の方法にとらわれず、新しいアイデアや方法を考えて提案することができる。

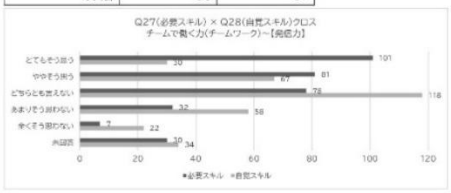
	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	87	73
ややそう思う	91	102
どちらとも言えない	82	89
あまりそう思わない	30	26
全くそう思わない	6	8
未回答	33	31



【チームで働く力(ワームワーク)】・・・多様な人々と強調し、目標達成に向けて協力するために必要だと感じる力

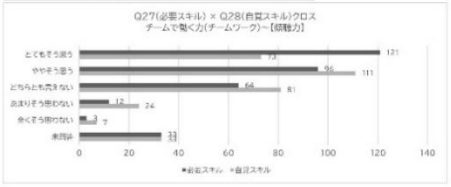
●発信力・自分の意見や考えを、相手にわかりやすく伝えるための工夫(話し方、言葉選びなど)ができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	101	30
ややそう思う	81	67
どちらとも言えない	78	118
あまりそう思わない	32	58
全くそう思わない	7	22
未回答	30	34



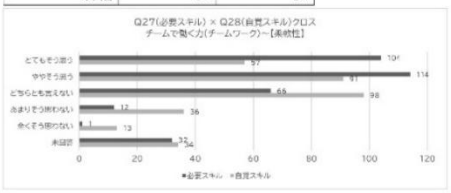
●傾聴力・・・相手の話を最後まで真剣に聞き、その内容や伝えたいことを理解しようと努めることができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	121	73
ややそう思う	96	111
どちらとも言えない	64	81
あまりそう思わない	12	24
全くそう思わない	3	7
未回答	33	33



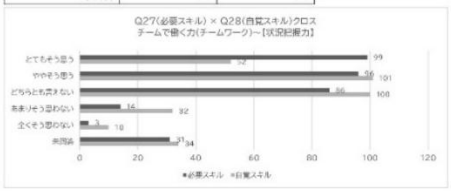
●柔軟性・・・自分の考えと異なる意見が出たとき、相手の立場や状況を理解し、受け入れることができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	104	57
ややそう思う	114	91
どちらとも言えない	66	98
あまりそう思わない	12	36
全くそう思わない	1	13
未回答	32	34



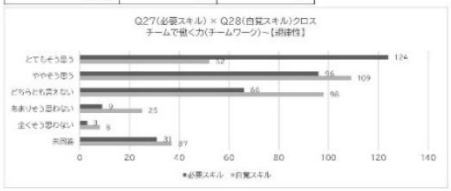
●状況把握力・・・今自分が置かれている状況や、周囲の人がどのような役割を持っているかを正確に理解できる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	99	52
ややそう思う	96	101
どちらとも言えない	86	100
あまりそう思わない	14	32
全くそう思わない	3	10
未回答	31	34



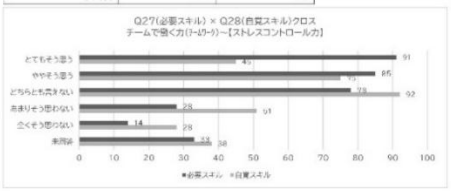
●規律性・・・学校や社会のルール、約束事、マナーなどを守り、責任をもって行動することができる。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	124	52
ややそう思う	96	109
どちらとも言えない	66	98
あまりそう思わない	9	25
全くそう思わない	3	8
未回答	31	37



●ストレスコントロール力・・・嫌なことや困難なことがあっても、気持ちを切り替え、自分でストレスを管理できる。

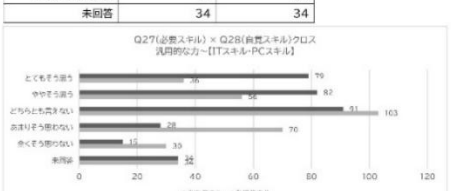
	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	91	45
ややそう思う	85	75
どちらとも言えない	78	92
あまりそう思わない	28	51
全くそう思わない	14	28
未回答	33	38



【汎用的な力】

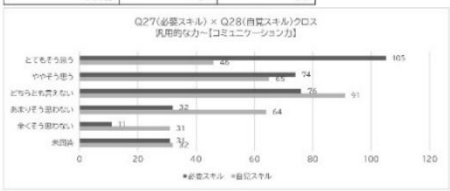
●IT 知識・PC スキル・・文書作成やデータ入力、インターネット検索などの基本的なパソコンスキル。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	79	36
ややそう思う	82	56
どちらとも言えない	91	103
あまりそう思わない	28	70
全くそう思わない	15	30
未回答	34	34



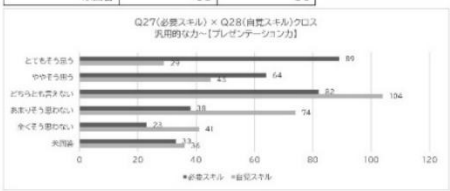
●コミュニケーション力・・・切対面の人や、考え方の違う人とでも、適切に意見を伝え、聞くことができる力。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	105	46
ややそう思う	74	65
どちらとも言えない	76	91
あまりそう思わない	32	64
全くそう思わない	11	31
未回答	31	32



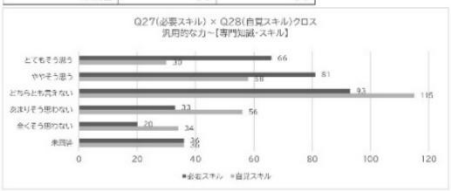
●プレゼンテーション力・・・多くの人々を前に、目的と結論を明確にし、説得力を持って発表する力。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	89	29
ややそう思う	64	45
どちらとも言えない	82	104
あまりそう思わない	38	74
全くそう思わない	23	41
未回答	33	36



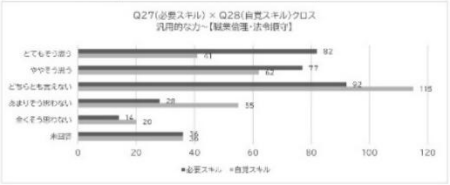
●専門知識・スキル・・・働く業界や職種に必要な特定の知識(例:IT 知識、会計知識、調理技術など)や資格。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	66	30
ややそう思う	81	58
どちらとも言えない	93	115
あまりそう思わない	33	56
全くそう思わない	20	34
未回答	36	36



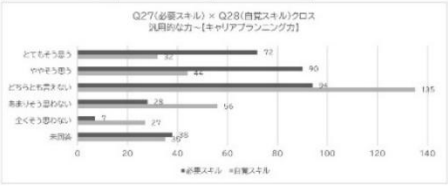
●職業倫理・法令順守・・・ビジネスマナー、ハラスメント防止、コンプライアンス(法令順守)に関する知識。

	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	82	41
ややそう思う	77	62
どちらとも言えない	92	115
あまりそう思わない	28	55
全くそう思わない	14	20
未回答	36	36



●キャリアプランニング力・・・自分の適性や興味を理解し、中長期的な目標を設定し、それに向けた学習や行動を選択する力。

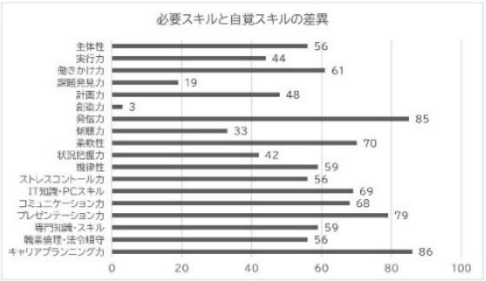
	必要スキル	自覚スキル
とてもそう思う	72	32
ややそう思う	90	44
どちらとも言えない	94	135
あまりそう思わない	28	56
全くそう思わない	7	27
未回答	38	35



●Q27(必要スキル)と Q28(自覚スキル)の差異

必要スキル・自覚スキルともに「とてもそう思う」+「ややそう思う」と回答した合計値。差異は必要スキルと自覚スキルの差異。

種別	必要スキル	自覚スキル	差異
主体性	197	141	56
実行力	183	139	44
働きかけ力	168	107	61
課題発見力	190	171	19
計画力	171	123	48
創造力	178	175	3
発信力	182	97	85
傾聴力	217	184	33
柔軟性	218	148	70
状況把握力	195	153	42
規律性	220	161	59
ストレスコントール力	176	120	56
IT 知識・PC スキル	161	92	69
コミュニケーション力	179	111	68
プレゼンテーション力	153	74	79
専門知識・スキル	147	88	59
職業倫理・法令順守	159	103	56
キャリアプランニング力	162	76	86



3－5. 通信制高校教職員ヒアリング調査結果

【1】学校法人槌蕊学園

<ヒアリング詳細>

学校名	聖光高等学校 通信制課程
所在地	山口県光市光井 9-22-1
URL	https://www.seiko-h.ed.jp/tusin2/index.html
日程	令和７年 11 月 21 日(金) 13:30～15:00
実施方法	対面
担当者	教頭 坂本 憲次 様
学生数/教員数	200 名 / 7 名(全日制との兼務有)

1. 生徒への進路指導体制・取り組みの現状、課題、必要な支援

聖光高校通信制課程では、生徒の多様な背景に寄り添いながら、少人数体制の中で進路指導を全教職員が協力して担っている。担任と進路部長を中心に、３年生では年２回の三者面談を４～５日かけて実施しており、保護者の参加率も高い。1、2 年生の段階から進路希望調査やホームルームを通して進路への意識を高める取り組みも行われている。また、進学希望者は自らオープンキャンパスへ参加し情報を持ち帰るなど主体的に動く傾向が見られる。一方で就職希望者についてはアルバイト経験の有無が大きく影響し、未経験の生徒は環境変化への適応が難しく、早期離職に至るケースもある。

また、通信制独自の課題も顕在化している。例えば、在宅学習中心の生活から集合活動へ移行する際の精神的負荷の拡大、レポート提出や調査書作成などの進路準備における事前の段取りが難しい点などが挙げられる。学校側はメールを活用し個別連絡を可能とするなど一定の対応は行っているが、進路決定までの伴走支援には限界があり、特に「日常的に学校に来ない生徒」への支援方法は大きな課題となっている。

加えて、同校には心理面や身体面での課題を抱える生徒も一定数おり、カウンセラーは全日制と共用で月数回の配置に留まるため、十分に対応できる体制にはなっていない。教員数も 7 名と少なく、生活指導・授業・進路指導を兼務する状況で、体系的なキャリア教育を十分に展開できていない点も課題である。

2. 企業・地域団体・行政・大学などとの連携実態とニーズ

聖光高校通信制課程における外部連携は、現状では限定的である。就職に関してはハローワークと通常の連携を持つものの、企業・大学・専門学校などと定期的な連携授業や進路支援を行う体系的枠組みはほぼ存在していない。大学や企業からの協働依頼が入ることもあるが、通信制課程でのスクーリングが主に土曜日であることから、外部機関側が休日となるケースが多く、学校側が依頼を連絡してしまうという実務的制約も連携拡大を阻んでいる。

また、全日制課程が大学と連携して実施している取組に合わせて参加する機会はあるものの、通信制独自の連携プログラムは確立されていない。しかし近年、専門学校側から通信制の生徒受入れに関心が高まっている。企業からも人材確保の観点で問い合わせが増加しているとの報告がある。これは、地域における若手人材の不足と、通信制生徒の多様な特性がマッチする可能性があることを示唆している。現状の課題としては次のとおりである。

①外部連携を企画・調整する人的余裕が教員側に乏しい
②通信制のスクーリング日程(主に土曜)が外部機関の稼働日と合わない
③生徒の通学習慣の弱さにより連携活動への参加ハードルが高い
④連携内容を体系化・継続化する仕組みが無い

他方、本事業の趣旨である「AI×データサイエンス導入による新コース構築"地域に選ばれる専修学校"づくり」を踏まえると、通信制高校との連携は極めて重要な基盤となる。同校には、在宅学習を中心とする生徒のため、職業理解・企業見学・短期実習などへのニーズが確実に存在する。また大学・専門学校に対しては、オープンキャンパス以外に"少人数・個別相談型"の進学サポートを求める声もある。

3. 授業や進路支援での ICT 活用状況、設備・スキル・運用課題

ICT 活用について、聖光高校通信制課程では一定の取り組みは進んでいるものの、体系化された活用には至っていない。授業では教員が各自でスライドや教材を作成し、教科書とレポートを中心に生徒が学習を進める形となっている。全日制で用いる教材を通信制向けに調整したスライドを使用する教員もおり、ICT を積極的に使う教員が中心となって教え合いながら工夫している状況である。しかしオンライン授業は実施されておらず、山口県全体としても通信制のオンライン学習導入は今後もしばらく難しいとの認識が共有されている。

生徒側の ICT スキルについては、情報科の授業や課題研究で Word・Excel 等を扱う機会はあるが、ICT リテラシー全体を体系的に育成するプログラムは存在しない。またスマートフォン操作は得意でも、PC 操作に習熟していない生徒も多い。保護者への ICT サポートも実施されていない。

一方で教員側の ICT スキルは比較的向上しており、AI 研修などを受けた教員が知識を共有する取り組みも見られる。しかし、校内ネットワークや PC 設定の煩雑化により、ICT 環境の維持・運用に大きな負担が生じている。ICT 教育の部門はあるものの人員は限られ、校内ネットワークの不具合や端末の更新の遅れなど、機器面の課題も多く、買替費用が大きな負担となっている。

生徒側への端末貸与や通信費補助はなく、通信制高校として一律配布の対象外であった経緯もあり、ICT 活用の前提となる学習環境は必ずしも整っていない。また、成績管理や出席管理が統合されておらず、今後は保護者も含め閲覧可能なプラットフォームの導入を検討している段階である。

【2】学校法人三田尻学園

<ヒアリング詳細>

学校名	誠英高等学校 通信制課程
所在地	山口県防府市東三田尻一丁目 2 番 14 号
URL	https://seiei.ac.jp/home schooling
日程	令和７年 11 月 25 日(火) 10:30～11:15
実施方法	対面
担当者	教頭 開地 弥生 様、西尾先生
学生数/教員数	147 名 / 16 名(全日制との兼務有)

1. 生徒への進路指導体制・取り組みの現状、課題、必要な支援

誠英高校通信制課程では、進路指導は基本的に対面を中心に行われており、必要に応じてオンライン面談や電話相談を実施している。三者面談は年２回を基本としながらも、特に３年生では個別相談を必要に応じて随時実施し、進路未決定者への対応を柔軟に行っている。卒業後の進路は就職が６～7 割と最も多く、進学は３割弱程度で、大学進学はごく少数である。進学希望者においては入学金等の経済的負担が障壁となり、場合によっては進学先の変更に至るケースも確認されている。

生徒のなかには不登校経験者も多く、精神的なケアを必要とする生徒もいる。通信制と全日制の共有でスクールカウンセラーが配置されているため、生徒保護者の区別なく、要請に応じ利用することができる。通信制においての体系的なキャリア教育プログラムや職業理解については、外部からの情報提供を利用しながら継続的に取り組みを行っている。

2. 企業・地域団体・行政・大学などとの連携実態とニーズ

誠英高校通信制課程における外部連携は、現状では一部の外部連携を進めている。学校が定常的に連携している外部機関は主にハローワークであり、新卒窓口との情報共有を通じて求人情報を得ている。大学・専門学校・企業・自治体・NPO 等と継続的な連携は、年１回程度で進学・就職向けガイダンスという形態で複数校が来校しブースを設置し実施している。

生徒に職業理解や進路選択の幅を提供するためには、専門学校や企業からの継続的な情報提供が必要であるため、今後も積極的に外部機関との連携の仕組みを構築する必要がある。また、通信制の登校日が主に土曜日及び日曜日であることから、外部機関に依頼する際には限られた登校日と連携先の外部機関と調整を進めながらの実施という状況にある。

また、企業見学や校外学習を行う際には交通手段が課題となり、バス利用時の費用負担を生徒に求めることが困難であるため、市町村や県による移動支援を求めている。

3. 授業や進路支援での ICT 活用状況、設備・スキル・運用課題

誠英高校通信制課程においては、専用タブレット端末による「一人一台端末」の環境を整備しており、探求の授業では、校内に構築された Wi-Fi 環境を利用し、ICT 機器を効果的に活用した教育活動を展開している。端末は導入から複数年が経過しており、今後は更新費用が大きな負担となっている。校内でのネットワークの整備、システム導入、ICT 機器の導入、トラブル対応は情報担当教員や一部の教員と限られた体制で担っており、十分な人員や専門性が確保されているとは言い難い。

授業においては、教員がスライド作成や動画活用などを個別工夫で行っているが、デジタル教材は必要に応じて各教員が独自に教材を制作している状況である。ICT が得意な教員が校内システムの構築や補助金申請などを主導し、一定の成果を上げている現状がある。今後は学校全体を挙げた、組織的な教育 DX の推進を加速させていく方針である。

また、生徒向けの ICT 指導や情報モラル教育は SNS トラブル対策にはじまり、体系的なデジタルリテラシー教育は今後整備を進めていく。進路支援においては通学時などに対面での指導を基本としており、オンライン相談・デジタルポートフォリオ・AI による適性分析などの仕組みは必要に応じて検討していく意向である。

【3】山口県立 山口松風館高等学校

<ヒアリング詳細>

学校名	山口松風館高等学校 通信制課程
所在地	山口県山口市小郡令和三丁目6番18号
URL	https://www.shofukan-h.ysn21.jp/
日程	令和７年11月25日(火) 15:30~16:15
実施方法	対面
担当者	教頭 倉重 秀治 様、斎藤先生、中嶋先生
学生数/教員数	1,241 名 / 23 名

1. 生徒への進路指導体制・取り組みの現状、課題、必要な支援

山口松風館高校の通信制課程では、生徒の状況に応じた柔軟な学習運営が行われている。テストは受験日を生徒自身が選択でき、欠席した場合も再設定が可能で、再チャレンジも最大2回まで認められる仕組みが整備されている。この柔軟性は多様な背景を持つ通信制生徒に配慮した運営となっている。一方で、登校日や活動状況に個々のばらつきが大きく、面接練習や履歴書作成時の経験不足(部活動・生徒会活動等)が課題となるケースも多い。アルバイト経験は一部生徒の社会性や面接対応に良い影響を与えているが、教員側は必ずしもそれが進路展開に直結しない点を指摘している。

進路支援においては、月１回の進路情報更新や初回オリエンテーションでの「進路の手引き」配付など、生徒が自分で情報を確認できる仕組みがある。しかし、ICT に不慣れな生徒が一定数おり、特にスマートフォンを使ったメール連絡やオンライン情報の扱いに時間を要するため、デジタルリテラシー支援が必要である。

専門職としてはスクールソーシャルワーカー(SSW)が配置され、家庭訪問や福祉支援の橋渡しを担っている。しかし、心理面のケアや進路選択の迷いを扱う専門支援が十分とは言えず、特に障害の有無によって就職支援の選択が難しいケースに対して学校側も判断に悩む状況がある。

2. 企業・地域団体・行政・大学などとの連携実態とニーズ

外部連携について、山口松風館高校の通信制課程では、現状として連携先は極めて限定的である。主な連携先はハローワークであり、就職活動支援に関する講師派遣などを通じて一定の協力を得ている。しかし、大学・専門学校・企業・自治体との体系的な連携はほぼ存在しておらず、在学中に活用できる福祉関連機関の支援も限定的で、実質的には卒業後からの支援が中心となっている。

年に一度、特別スクーリングの機会に卒業生やハローワーク職員を招いた講話は実施されているが、専門学校や企業による連携授業、職業体験、企業見学等のプログラムはほとんど提供されていない。この背景には、通信制スクーリングが日曜日に実施されることから、企業・行政に依頼する際に「休業日にあたるため負担をかけるのでは」と学校側が遠慮してしまう構造的課題がある。

一方で、「興味のある分野に関する体験や講座の機会があれば生徒の意欲につながる」との教員の認識も強く、特に調理や e スポーツなど新しい分野への関心を示す生徒が増加している点から、柔軟な分野連携へのニーズは高い。また、進学先や専門学校の選択肢について生徒が十分に把握できていない現状があり、地元進学ルートの情報提供や業界理解への支援を求めている。

外部連携に対する最大の制約は交通手段であり、校外学習や企業見学の際にバス代を生徒負担とすることが難しく、移動支援の不足が体験機会の提供を妨げている。行政による移動支援や地域機関の連携モデル構築が必要と考える。

3. 授業や進路支援での ICT 活用状況、設備・スキル・運用課題

山口松風館高校の通信制課程では、教員のみ指導者用端末(県貸与担)と校内 Wi-Fi 環境、Teams 等のツールを備え、ICT 環境は一定程度整備されている。端末の更新時期が近づいているものの「大きな不足はない」とされ、機材面での基盤は整っている。ICT 支援員が週１回巡回しており、技術的トラブルも対応可能な体制が維持されている。ただし、生徒は一人一台の端末がなく、ICT 環境は整っていない。

ICT 活用は教員の個別スキルに依存しており、組織的な教育 DX とは言い難い。教員研修は過去に７回実施されたが、毎年定期的に行われているわけではなく、新機能の導入時に短時間研修を行う程度にとどまっている。授業ではプログラミング内容(Python 等)も扱うが、生徒が実際に PC 操作を行う機会はなく、教員が画面提示し「コードを読む」ことが中心となり、探究的・実践的な ICT 学習には至っていない。

生徒側の ICT スキルは個人差が大きく、情報モラル教育は入学直後に警察講話を実施しているものの、体系的なデジタルリテラシー教育は存在しない。特にスマートフォンでのメール利用やオンライン手続きに不慣れな生徒も存在し、進路支援場面でも ICT 操作が障壁となるケースがある。また、保護者への ICT サポートは原則実施されておらず、家庭との情報共有も電話が中心である。

現行の教員配置では、一人あたり担当生徒数が増加しつつあり、ICT を活用した校務効率化や個別最適化支援の導入の検討も必要になっている。

4. 総評

本調査結果に基づき、通信制高校生が抱える課題、ICT およびデジタル分野への期待、そして地域連携の必要性について、以下の３つの視点から総評をまとめる。

【1】進学・就職における心理的・経済的障壁と情報アクセスの改善

アンケート調査では、多くの生徒が専門学校等への進学に意欲を示す一方で、「授業についていけるか」という学習面(55 名が「とてもそう思う」)や「友人関係に馴染めるか」という心理面(41 名が「とてもそう思う」)での不安を強く抱いている実態が浮き彫りとなった。また、入学金や授業料などの経済的な不安も顕著であり、奨学金情報の不足や手続きの複雑さを課題視する声も挙がっている。教職員へのヒアリングでも、日常的に登校しない生徒への伴走支援には限界があり、特に「情報の受け取り」に個人差が生じていることが指摘されている。これらの障壁を解消するためには、単なる情報提供に留まらず、入学前から心理的なハードルを下げるカウンセリングや、個々の経済状況に配慮したきめ細やかな進路相談体制の構築が不可欠と考える。

【2】デジタルリテラシーの格差解消と ICT を活用した実践的学びの提供

高校生の関心事として、「動画編集(81 名)」や「生成 AI の活用(70 名)」、「イラスト・ゲーム制作(93 名)」など、デジタルコンテンツへの非常に高い興味が示されている。しかし、現状の ICT 環境は「スマートフォン(209 名)」の利用が主流であり、ノートパソコンを学校で利用している生徒はわずか 10 名に留まっている。この結果、「IT 知識・PC スキル」を社会で必要な能力だと感じている生徒(161 名)に対し、自分にそのスキルがあると自信を持っている生徒(92 名)の間には「69 ポイント」もの大きな認識の差(ギャップ)が生じている。教職員側からも、生徒が PC 操作に習熟していない現状や、学校側の機材更新費用の負担、運用人員の不足といった構造的な課題が報告されている。本事業が目指す「AI×データサイエンス」の導入は、こうした生徒の潜在的な興味を、単なる消費活動(スマホ利用)から専門的な職業スキル(PC 活用)へと昇華させるための極めて重要な架け橋になると考える。

【3】地域産業の持続可能性を支える"育成・伴走・定着"の連携モデル

現在、通信制高校と外部機関の連携はハローワーク等の一部に限定されており、地域企業や専門学校との体系的な連携授業や職業体験は十分に提供できていないのが現状である。その背景には、土日を中心とする通信制高校のスクーリング日程と外部機関の稼働日との不一致や、校外学習における通信制高校生の移動費用の負担といった構造的な課題がある。一方、生徒からは「地域の様々な人との交流」や「職場体験」を求める声が寄せられており、教職員も「興味・関心のある分野での体験機会の提供が、生徒の学習意欲や進路意識の向上につながる」と認識している。本事業を通じて、専修学校がハブとなり、通信制高校の柔軟なプログラム設計と地域産業のニーズを繋ぐ「一体型支援体制」を構築することは、若年層の県内進学・就職を促進し、地域産業における人材確保と活性化を実現するための鍵になると考えられる。

文部科学省委託事業
令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
(人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム)
「通信制高校連携型キャリア形成支援による地域密着人材育成モデルの構築事業」

通信制高校向け実態調査(進路・ICT 環境・外部連携)

(アンケート・ヒアリング調査)報告書

令和８年２月
学校法人 YIC 学院
〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町２番 24 号

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。